高崎市文化財調査報告書第256集

生原・天神前遺跡

－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2010

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第256集

生原・天神前遺跡

－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2010

高崎市教育委員会

例　言

1．本書は共同住宅建設に伴う生原・天神前遺跡の発掘調査報告書である。
2．本遺跡の高崎市遺跡番号は 444 である。
3．発掘調査は平成 21 年 6 月 16 日～同 7 月 19 日まで実施し、平成 22 年 3 月 12 日まで整理作業を実施した。
4．発掘調査・整理作業は、高崎市教育委員会が委託契約を締結した株式会社測研の協力を得て実施した。
5．発掘調査の体制は下記の通りである。
　高崎市教育委員会　　出口 一郎　須田奈保子　角田真也
　株式会社　測研　　水谷貴之
6．発掘調査・整理作業にあたり、高林真人（測研）の協力を得た。
7．本書の執筆は、Ⅰを田口が、Ⅱ～Ⅴを水谷が行い、編集は水谷が行った。
8．整理作業の実施にあたっての出土遺物の注記は、遺跡番号・出土遺構名・出土位置などを記入した。
9．出土遺物及び図面・写真などの調査記録類は、全て高崎市教育委員会が保管している。
10．発掘調査にあたり、下記の方々・機関からご指導・ご協力を賜った。（順不同）
　丸岡千鶴雄　積水ハウス株式会社　福田貫之　佐々木清貴　山際哲章
　山下工業株式会社　有限会社渡重機工業　加藤空撮

凡　例

1．本書で使用した座標は全て世界測地系である。挿図中では下３桁を表示し、Y 座標にはマイナスを付した。
2．本書の挿図中における北方位は座標北を示す。断面図中の「L=」は標高である。
3．遺構の主軸方位・長軸方位などは座標北（N）から東（E）または西（W）方向への角度として計測した。
4．発掘調査と本書で使用した遺構名称の略称は下記の通りである。
　竪穴住居跡 =SI　　溝 =SD　　上坑 =SK　　古墳 =SZ　　ピット =P
5．遺構実測図の縮尺は全て挿図中に明示したが、主なものは下記の通りである。
　S=1/60　竪穴住居跡平・断面　土坑平・断面　溝平・断面　古墳周堀断面
　S=1/200　古墳周堀平面　S=1/500　全体図
6．遺物実測図の縮尺は全て挿図中に明示したが、主なものは下記の通りである。
　S=1/4　土器類　　S=1/3　金属製品・石製品　　S=1/4　石器　　S=1/2　古銭
7．本書で使用した地図は下記の通りである。
　第２図　国土地理院発行 1/25,000 地形図「下室田」
　第３図　高崎市発行 1/2,500 都市計画基本図
8．発掘調査での土色観察、本書での遺物色調観察は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖（1998 年版）』によった。
9．本書で使用したテフラ名称は下記の通りである。
　As-A：浅間 A 軽石（1783 年）　As-Kk：浅間粕川テフラ（1128 年）　As-B：浅間 B 軽石（1108 年）
　As-C：浅間 C 軽石（3 世紀後半）　As-YP：浅間板鼻黄色軽石（1.3 ～ 1.4 年前）
　Hr-FA：榛名二ッ岳渋川火山灰（6 世紀初頭）　Hr-FP：榛名二ッ岳伊香保軽石（6 世紀中葉）
10．本書の土層説明文ではテフラ名称などを下記のように略して記載した個所が多くある。
　As-A → A　As-B → B　As-C → C　As-YP → YP　Hr-FA → FA　Hr-FP → FP　ローム→ L
11．竪穴住居跡の主軸方位はカマドの方位と並行する壁面の主方位を計測することを基本とした。
12．本書の遺物実測図で使用したトーンなどは下記の通りである。
　土師器・「土師質土器」・縄文土器／酸化焔焼成・・・断面白抜き

須恵器／酸化焔焼成気味・・・・・・・・・・・・・断面黒塗りに白丸
須恵器／還元焔焼成・・・・・・・・・・・・・・・断面黒塗り
灰釉陶器・・・・・・・・・・・・・・・・・・・施釉範囲　　断面ドット
土器付着物など・・・・・・・・・・・・・・・・点描表現

13. 遺物実測図において、酸化焔焼成気味の須恵器の断面は黒塗りに白丸を付けて表現したが、これが包括する範囲は広い。中には極めて酸化焔焼成に近いものや、還元焔焼成として扱ってよいと思われるものまで含まれている。本書では、還元焔焼成の良好な須恵器やロクロ使用で明らかに酸化焔焼成の土器と、羽釜出現前後に多くなる酸化焔焼成気味の須恵器を、実測図上で視覚的に区別することを目的として、こうした表現方法を試行した。もとよりロクロ使用酸化焔焼成の土器をどのように理解するかの立場を明らかにする必要はあるが、本書ではひとまず「土師質土器」として掲載する。また、その定義の理解によっては酸化焔焼成気味の須恵器とした遺物中にも「土師質土器」が含まれている可能性は大きいが、現在では報告者に検討する用意が無いため、本書中ではロクロ使用で酸化焔焼成が明瞭なものを、あくまで暫定的に扱った。

目次

例言・凡例・目次
Ⅰ．調査に至る経緯……1
Ⅱ．調査の方法と経過……1
Ⅲ．遺跡の地理的・歴史的環境……2
Ⅳ．調査した遺構と出土遺物……5
（1）竪穴住居跡……5
（2）溝……7
（3）土坑……8
（4）古墳……8
（5）その他……9
Ⅴ．まとめ……9
写真図版
報告書抄録・奥付

挿図目次

第1図　基本土層
第2図　周辺の遺跡
第3図　調査区位置
第4図　調査区全体図
第5図　SI-1（1）
第6図　SI-1（2）・SI-2
第7図　SI-3
第8図　SI-4
第9図　SI-5
第10図　SI-6・SI-7（1）
第11図　SI-7（2）・SI-8
第12図　SD-1～7
第13図　SK（1）
第14図　SK（2）
第15図　SZ-1（1）
第16図　SZ-1（2）
第17図　遺物実測図（1）SI-1～3
第18図　遺物実測図（2）SI-3～5
第19図　遺物実測図（3）SI-5～8
第20図　遺物実測図（4）SI-8・SZ-1・遺構外
第21図　遺物実測図（5）金属製品・石製品・縄文遺物（1）
第22図　遺物実測図（6）縄文遺物（2）

表目次

第1表　土坑計測値など一覧表
第2表　遺物観察表（1）
第3表　遺物観察表（2）

写真図版目次

図版1　調査区全景（上が北西）
調査区遠景（南東から／中央奥左寄りの杜が北野神社）
調査前現況（北東から／梅林抜根後）
SI-1　As-B確認状況（南から）
SI-1　As-B直下の状況（北西から）
図版2　SI-1　土層断面（南東から）
SI-1　全景（西から）
SI-1　カマド（北西から）
SI-2　全景（西から）
SI-3　全景（西から）
SI-4　全景（西から）
SI-5　全景（西から）
SI-5　遺物出土状況（北東から／遺物№50周辺）
図版3　SI-5　遺物出土状況（西から／遺物№94）
SI-5　カマドA（西から）
SI-5　カマドB（西から）
SI-5　カマドB支脚と遺物№43・44底部確認状況（東から）
SI-5　調査風景（西から）
SI-6　全景（西から）
SI-7　全景（西から）
SI-7　遺物出土状況（北東から／遺物№59周辺）
図版4　SI-8　全景（西から）
SZ-1　表土上に存在した集石（南から）
SZ-1　全景（南東から）
SZ-1　全景（北から）
SZ-1周堀　裸山土状況（南から）
SK-34　集石確認状況（北西から）
SD-2東トレンチ　上層断面（南西から）
埋没谷の調査状況（北西から）
図版5～7　遺物写真

Ⅰ．調査に至る経緯

平成21年2月、丸岡千鶴雄氏（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に箕郷町生原に計画する共同住宅建設予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。

市教委は、該当地周辺において圃場整備事業や住宅建設に関わり縄文～平安時代の集落跡や古墳が調査されており、周辺地域にも拡がる可能性が大きいことから、試掘調査による確認を行うことと、その結果による工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年2月26日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年5月7・8日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳の周堀や平安時代の竪穴住居址及び溝遺構を複数確認した。

試掘結果を受けて、埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、建設予定の変更は不可能ということなので、記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、株式会社測研に委託して実施することとなり、平成21年6月11日付けで高崎市長・事業者・測研の三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成21年6月11日付けで事業者と測研の二者で発掘調査委託契約が締結された。

Ⅱ．調査の方法と経過

発掘調査の方法　本遺跡の発掘調査にあたって、表土の掘削には重機を使用し、試掘調査の所見により基本土層1の2層を遺構確認面とした。調査区北東際の地形が落ち込む部分についても重機を使用しトレンチを掘削した。古墳石室の可能性が予測された表土上の集石については、現地表面からのトレンチを人力で掘り下げ、これがプライマリーな状態に無いことを確認した上で、重機によって移動、該当部の表土を掘削した。

遺構確認面とした基本土層1の2層は、As-Cを含む黒色土に相当するものと認識した。しかし洪水の影響によるものであろうか、上色の発色状態が不良で、かつ細砂が薄く存在する部分も確認している。この面においてジョレンによる遺構確認を行ったところ、古墳周堀・土坑・溝などの諸遺構の他に、覆土にAs-Bが純堆積する竪穴住居跡を確認した。しかし土坑の調査進捗に伴い、その底面や壁面において、遺構確認面からでは認識することができない状況で竪穴住居跡が複数存在することが判明した。そのため、これら範囲を面的に把握するためのトレンチを調査区北東側に主体的に設定し、基本土層1の4層まで掘り下げて遺構確認に努めた。結果として確認した竪穴住居跡についてはトレンチを随時拡張し、この面からの調査を行った。地山の状態が安定している調査区南西側では、当初の遺構確認面で十分遺構確認ができたことからトレンチは設定していない。一方、調査区北東際の地形の落ち込みは埋没谷であり、As-Bの堆積が良好に残されていた（基本土層2）。このことからAs-B直下の水田跡が存在する可能性を考慮し、人力によって部分的にAs-Bを取り除き、直下面の精査を行った。

各遺構の調査では移植ゴテを使用して掘り下げることを基本としたが、諸事情により粗い調査方法を取らざるを得ない状況も生じた。具体的にはスコップを使用して遺構を掘り下げたのだが、こうした調査方法を取った遺構を以下に明記しておく。SI-3・SI-4・SI-6・SD-1・SD-2・SZ-1周堀。スコップ使用の結果として、重複遺構からの出土遺物の帰属などに問題を残した部分もあり、さらに遺物の発見精度にリスクを負うものであったことは言を待たない。ただし、スコップを使用したのは遺構覆土の主体的部分のみであり、壁面や底面・床面の検出は移植ゴテで行っている。また竪穴住居跡カマドなどの内部施設の調査も移植ゴテによるものである。

各遺構の検出作業においては、上層観察用のセクションベルトを残しながら掘り下げを行い、土層断面記録の終了後に完掘することを原則とした。各遺構から出土した遺物のうち、必要なものについては適宜出土状況の記録化を行い、最終的に遺構平面図の作成を行った。遺構の記録図面は平面図・断面図ともにデジタル測量にて作成した。写真記録は35mm1眼レフカメラを用いてモノクロフィルム・リバーサルフィルムにて撮影し、併せてデジタルカメラによる撮影も行った。

発掘調査の経過　6月15日：休憩用プレハブなど仮設資材の搬入。調査区周囲の安全対策実施。16日：表土掘削開始。遺構確認作業。SD-1調査開始。17日：調査区北東側の埋没谷の存在を確認する。18日：埋没谷As-B直下の精査を行う。22日：溝の調査開始。23日：土坑の調査開始。25日：SI-1の調査開始。29日：住居確認トレンチの掘り下げを開始。以後、住居が確認できたトレンチを随時拡張する。
7月3日：この頃までにSI-3・4・5・8を確認し、調査を開始する。7日：住居跡の調査と並行し、SZ-1周堀の調査を開始。10日：SI-6・7を確認、調査開始。13日：住居跡の調査、周堀の調査を継続する。15日：住居跡の調査が一段落する。周堀の調査は継続。17日：空撮前清掃、現場撤収作業、SI-2の調査。市教委による終了確認あり。18日:空撮実施。住居遺物の取り上げ。19日:残務作業を行い、現場での作業を終了する。21日:休憩用プレハブなど仮設資材を搬出する。

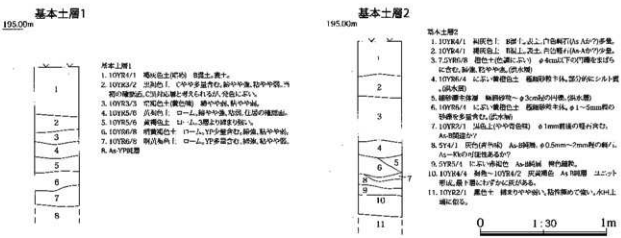
Ⅲ．遺跡の地理的・歴史的環境

本遺跡の周辺では複数の遺跡が発掘調査されている。この地域の地理的・歴史的環境についてはそれらの発掘調査報告書に詳述されているが、ここでは『海行A・B遺跡』(田口1988)、『生原八反島遺跡』(高林2007)、『全徳森遺跡』(日沖2009)の記述内容を参考とし、略述しておく。

地理的環境　本遺跡が所在する群馬県高崎市箕郷町は関東平野の北西縁に位置し、市域の南東側は埼玉県、北西側は長野県と接する。市の北部には榛名山がそびえ、現在では群馬県を代表する山のひとつとして名が知られている。古墳時代6世紀には2度の大規模な噴火を引き起こし、Hr-FA・Hr-FPを降下させた。この噴火は当時の社会に対して様々な災害をもたらしたのである。ところで、本遺跡は榛名山の東南麓に位置するが、ここには扇状地地形が発達している。西側に古期扇状地面である「十文字面」があり、東側には広大な「相馬ヶ原扇状地」が開ける。さらに両者の間には西に榛名白川が南流し、東には井野川が東南流する。この両河川に挟まれた部分にも小規模な扇状地地形が形成されており、古墳時代における榛名山の2度の噴火に起因する火砕流や洪水によるものとされる。この小規模扇状地地形は「白川扇状地」と呼ばれている。本遺跡の所在地は、これら扇状地地形のうち「相馬ヶ原扇状地」の西端に該当するが、「白川扇状地」との境界付近に位置するものである。

歴史的環境　本遺跡の周辺で確認される遺跡では、発掘調査がなされたものも少なくない。「生原遺跡群」と呼ばれるこれらの遺跡には、田島遺跡・人清水遺跡（2）・海行A・B遺跡（11）（12）・善龍寺前遺跡（6）・中新出遺跡（10）・八反畠遺跡（8）・諏訪遺跡（9）・飯盛遺跡（3）・佐藤遺跡（4）・堀ノ内遺跡（5）・薬師遺跡（7）がある。その他でも周辺には多くの遺跡が存在しており、中里遺跡群西芝遺跡（14）・保渡田荒神前遺跡（13）なども知られている。学史上著名な上芝古墳（16）は本遺跡の西に位置する。

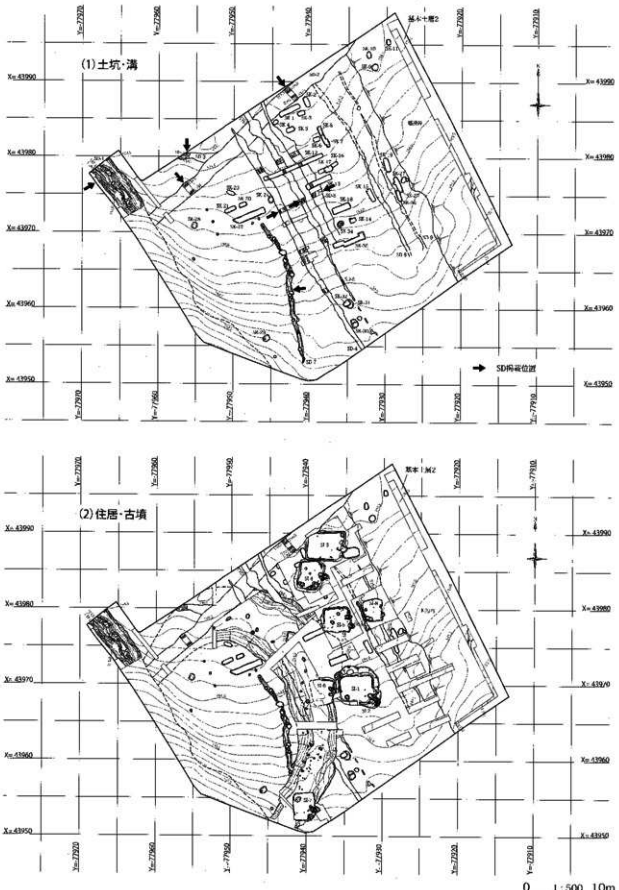
こうした周辺遺跡の調査内容を参照すると、旧石器時代の様相は不明瞭であり、縄文時代の遺跡は少なめなものの中期加曽利E式期の遺物・遺構が多いようである。弥生時代後期樽式期の集落は保渡田荒神前遺跡を北限とするようであるが、全徳森遺跡（15）で樽式期の甕破片が1点報告されており、当該期の集落動向を検討する上で注視できる。古墳時代の集落では前期の遺構・遺物が飯盛・佐藤・田島遺跡でわずかに見つかっているが、本格的な集落の形成は後期以降となる。該当する時期の遺構は「生原遺跡群」でも複数の遺跡で確認されている。一方、古墳時代5世紀後半になると「生原遺跡群」から約2km南東に保渡田古墳群の二子山古墳・八幡塚古墳・薬師塚古墳の3首長墓が築造される。6世紀以降では群集墳を多く確認することができ、海行A遺跡では古墳時代終末期の円墳が5基検出されている。また本遺跡の近隣では生原本田古墳群が形成され、北野神社境内にも墳丘を認めることができる。奈良・平安時代の集落は「生原遺跡群」の主体であり、本遺跡で調査した竪穴住居跡もこの時期に含まれる。また、本遺跡の至近には生原・中内出散布地（17）での瓦の散布が周知され、寺院や公的施設が付近に存在した可能性を示唆するものとして重要である。中世になると箕輪城（18）が築城され在地領主長野氏の影響が色濃くなる一方で、この地域では武田・上杉・北条の三つ巴の戦いが展開していく。「生原遺跡群」では飯盛遺跡などで戦国期の居館が調査されており、本遺跡の至近には生原の砦（19）も存在する。調査地周辺には箕輪城を核とする中世遺跡が複数存在したものと思われる。



第1図　基本土層

第2図　周辺の遺跡

第3図　調査区位置



第４図　調査区全体図

Ⅳ. 調査した遺構と出土遺物

(1) 竪穴住居跡

1 号住居跡 (SI-1 ／第 5・6 図)

位置(座標) 調査区中央やや南東寄り (X=972・Y=931 付近) **重複関係** SI-2・SK-34 より新しく、SK-14・SK-35・SD-6 より古い。 **平面形態** 外周部は不整楕円形、本体部は隅丸長方形 **規模** 外周部：東西 5m77cm・南北 5m13cm、本体部：東西 4m56cm・南北 3m36cm・深さ 66cm 程度 **主軸方位** N-85°-E **調査所見** 床面はほぼ平坦で、カマド前を主体としてやや硬化する。南西隅に不整円形の小十坑があり、貯蔵穴に相当するものであろうか。壁際の周溝は北東隅から南西隅手前まで確認でき、南縁では見つからなかった。柱穴は確認できない。竪穴本体部の周囲には緩傾斜のテラス状部分がある。 **カマド** 南東隅で検出した。石組みカマドであり、袖芯材および燃焼部内壁～煙道の補強材として礫が用いられる。煙道天井部は複数の礫の高架によって閉塞される。原位置を留める礫が多い中で、崩落したと考えられるものも存在した。 **遺物** 須恵器壺・羽釜などの他、丸瓦の形態に似る十製品が出土した。 **特記事項** 本住居跡の覆土中には As-B の純層が認められ、外周部から住居跡中央部へと緩やかな傾斜で堆積していた。よって、As-B 降下時における本住居跡は埋没途中の窪地であったことがわかる。降灰時の埋没程度は住居跡中央付近では 25cm 程度であり、自然的な埋没状況が観察できた。

2 号住居 (SI-2 ／第 6 図)

位置(座標) 調査区中央やや南東寄り (X=969・Y=930 付近) **重複関係** SI-1 より古い。 **平面形態** 隅丸方形 (推定) **規模** 東西 2m34cm (残存)・南北 2m40cm (残存)・深さ 14cm 程度 **主軸方位** N-106°-E **調査所見** 床面はほぼ平坦で、カマド前を主体として硬化する。SI-1 によって大部分が壊されており、貯蔵穴や柱穴などは見つからなかった。 **カマド** 東壁の南東隅寄りで検出した。焚口に礫が散乱しており、本来は石組みカマドであった可能性がある。長めの礫は焚口の天井石であろうか。 **遺物** 須恵器壺・羽釜・土師器甕が出土した。

3 号住居 (SI-3 ／第 7 図)

位置(座標) 調査区北 (X=990・Y=-940 付近) **重複関係** SI-4・SK-2・33・SD-2・8・9 より古い。 **平面形態** 長方形 **規模** 東西 5m28cm・南北 3m95cm・深さ 41cm 程度 **主軸方位** N-92°-E **調査所見** 床面はほぼ平坦で全体的にやや硬化するが、カマド前の硬化が強い。柱穴は見つからない。北東隅に深さ 15cm 程度の小穴があり、これが貯蔵穴に相当するものと考えられる。壁際の周溝は南東隅を除きほぼ全周する。 **カマド** 東壁やや南寄りで検出した。北側の袖基部が残る。カマド前面では粘質土の流出が顕著で、この中には土師器甕が含まれていた。燃焼部には赤色化した焼土が多く堆積していた。 **遺物** 土師器坏・鉢、複数個体の土師器甕、須恵器瓶の他、覆土中の重複十坑からは須恵器壺・羽釜が出土した。さらに、この重複十坑からは極めて薄い皮膜状物質が出土している。黒色基調であるが、片面が赤色になるものも含まれている。これが漆の皮膜であるならば、木器 (椀など) の存在を想定できる。 **特記事項** 本住居跡の平面形態はよく整っており、一部南東隅で歪むが全体的に丁寧な掘り込みである。また、覆土中の重複十坑は十層断面のみの確認であり、6・7 層が該当する。

4 号住居跡 (SI-4 ／第 8 図)

位置(座標) 調査区北 (X=983・Y=-938 付近) **重複関係** SK-3・6・7・8 より古く、SI-3 より新しい。 **平面形態** 隅丸長方形 **規模** 東西 3m69cm・南北 4m21cm・深さ 49cm 程度 **主軸方位** N-100°-E **調査所見** 床面はほぼ平坦で、カマド前を主体的にやや硬化する。南東隅に貯蔵穴が、南西隅と南壁中央付近に浅い落ち込みがある。床面ほぼ中央のピットが柱穴であろうか。壁際の周溝は断続的にほぼ全周する。ただし北壁中央付近では食い違う部分がある。 **カマド** 東壁中央で検出した。燃焼部には火床の被熱痕跡が顕著である。内壁は礫によって補強され、一部、扁平な直方体礫に加工された角閃石安山岩も用いられる。底面には小穴が存在

し、支脚や補強石などの抜き取り痕の可能性も考えられる。　**遺物**　須恵器埦・羽釜・灰釉陶器瓶などが出土した。

5号住居跡（SI-5／第9図）

位置（座標）　調査区中央やや北寄り（X=980・Y=-934付近）　**重複関係**　SK-13・16・17より古い。　**平面形態**　隅丸長方形　**規模**　東西3m89cm・南北3m32cm・深さ29cm程度　**主軸方位**　N-89°-E　**調査所見**　床面はほぼ平坦で、カマド前を主体的に硬化する。2基の浅い皿状ピットを検出しており、P1は床面からの掘り込み、P3は床下の掘り込みである。P3は深さ6cm程度を測り、覆土の上面が床面同様に硬化していた。また北東隅にはP2があるが、これが貯蔵穴に相当するものと考える。本住居跡の壁面ラインは歪みを持つ部分があるが、特に西壁中央付近の歪みはSK-17の影響を受けている。　**カマド**　2ヶ所で検出した。いずれも東壁に設けられ、南側をカマドA、北側をカマドBと呼称する。カマドAには袖石があり、南側の袖石は縄文時代石皿の転用である。燃焼部内壁沿いの小穴は補強石の抜き取り痕と考えられる。底面には自然石の支脚が直立状態で残され、その手前には火床の被熱痕跡が明瞭である。カマドBは石組みカマドである。袖と燃焼部壁に礫を使用し、煙出し付近には天井石が乗る。底面には自然石の支脚が直立状態で残され、この上には須恵器埦が乗せられていた。これについては後述する。支脚の手前には火床の被熱痕跡がある。　**遺物**　比較的多くの遺物が出土した。須恵器埦や土師質の坏・羽釜・須恵器甕・灰釉陶器碗・皿・長頸壺・小瓶などの他、鉄製品や毛抜き状の銅製品、砥石等も出土した。　**特記事項**　検出した2基のカマドは、住居壁面に対する燃焼部の位置など、その構造を異にする。しかし覆土の観察では両者ともに、造り替え目的という意味において、意識的に埋め戻された状況は認められなかった。よって両者は同時併存として判断したが、これは必ずしも同時構築を意味するものではなく、むしろカマドAが当初に造られ、その後カマドBが時間差を持って造られたと考えたい。この構築順序の想定は、当該期のカマドが東壁南寄りに造られる傾向が強いことを根拠としており、両者の構造の違いは構築の時間差に起因するものと説明しておきたい。また、カマドBの支脚の上には2個体の須恵器埦（№43・44）が乗せられていた。№44が逆位で支脚にかぶさり、№43は正位で№44の高台部と密着して（出土状態では高台の周縁は完全に一致しておらず、わずかなズレがあった）乗せられていることから、意図的になされたものと考えられる。支脚とカマドに懸けられた土器との緩衝材、またはその土器の懸高を微調整するための目的が想起されるが、一方でカマド使用停止（廃絶段階）に伴う「儀礼」的行為がなされた可能性も考慮しておきたい。ただし、このような「儀礼」的行為を考えた場合、同時併存としたカマドAでは同様の痕跡が具体的でない点に疑問点は残る。

6号住居（SI-6／第10図）

位置（座標）　調査区中央やや南寄り（X=970・Y=-936付近）　**重複関係**　SK-35・SD-5・6より古く、SZ-1周堀より新しい。　**平面形態**　いびつな隅丸長方形（推定）　**規模**　東西2m58cm（土層断面をふまえて計測）・南北3m62cm・深さ58cm程度　**主軸方位**　N-77°-E　**調査所見**　床面はほぼ平坦で、把握した範囲での全面がやや硬化する。カマド南側の浅い掘り込みが貯蔵穴に相当する。周溝は北東隅から北壁中央付近にかけて短く存在した。柱穴は見つからない。　**カマド**　東壁ほぼ中央で検出した。袖の基部が残る。煙道部の状況は不明瞭であった。　**遺物**　須恵器埦・羽釜が出土した。　**特記事項**　本住居跡はSZ-1周堀と重複するが、それよりも新しい。周堀の調査以前にその存在を認識できず、住居跡としての認識は周堀の調査過程であった。そのため、その時点で本住居跡の西側を大きく損なってしまった。西側の住居範囲は土層断面を根拠とした推定ラインであり、平面形態が歪む形態を推定復元している。しかしその全体的な根拠は薄い。北西隅が張り出す形態になっているが、この部分はもう少し整っていた可能性はある。調査段階の所見を優先し、補正はしなかった。

7号住居跡（SI-7／第10・11図）

位置（座標）　調査区南隅（X=956・Y=-941）　**重複関係**　SD-8より古く、SZ-1周堀より新しい。　**平面形態**　隅丸長方形（南東隅の丸味強い）　**規模**　東西2m89cm・南北3m65cm・深さ36cm程度　**主軸方位**　N-89°-E

調査所見　床面はほぼ平坦で、カマド前面を主体的にやや硬化する。南東隅に貯蔵穴が存在する。柱穴は見つからなかったが、北西隅に不整円形の小土坑がある。　**カマド**　東壁南寄りで検出した。燃焼部からカマド前面にかけて多くの礫が散乱する。これらはカマド構築材であったと考えられ、本来的には石組みカマドであった可能性がある。ほぼすべての礫が原位置に無く、焚口両脇の礫は原位置に近いものの微移動している。カマド使用停止の際に壊されたと考えられ、礫の散乱はその結果であろう。　**遺物**　須恵器碗・羽釜・灰釉陶器小瓶が出土した他、須恵器短頸壺も出土した。この短頸壺は6世紀代の遺物と考えられ、本遺跡の遺物中では「手の様相を示す。

8号住居跡（SI-8／第11図）

位置（座標）　調査区中央やや北西寄り（X=981・Y=-930付近）　**重複関係**　SD-8・9・SK-19より古い。
平面形態　隅丸長方形　**規模**　東西2m64cm・南北2m96cm・深さ11cm程度　**主軸方位**　N-87°-E　**調査所見**　床面はほぼ平坦で、全体的に硬化は弱い。西壁付近と東壁北寄りにピットがある。南西隅にある掘り込みは重複しており、東側が浅く西側が深い。東側の掘り込みは住居の覆土を切っており、本住居跡より新しい土坑である。　**カマド**　東壁南寄りで検出した。比較的まとまって遺物が出土したが、カマド自体の遺存状態はあまり良くない。　**遺物**　須恵器碗・羽釜・灰釉陶器皿などが出土した。また、南西隅の重複土坑からも碗が出土した。

(2) 溝

1号溝（SD-1／第4・12図）

北西から南東方向へと流下する溝である。調査区北端部のみ掘り下げ、それ以外は平面プランの記録に留めた。検出した遺構の幅は2m94cm・深さ1m10cm前後を測る。調査時の聞き取りでは、「70年ほど前に東側の土地を切土して埋め立てた水路であり、水路の西側の現道路部分にはかつて幅の狭い水田があった。」とのことである。この水路の取水は西に流れる天神川からなされたと考えられる。出土遺物は土師器・須恵器から近現代陶磁器までを含むが、主体となるのは近世陶磁器である。この水路の廃絶時期は現代であるが、土層断面の観察では掘り直しの様子もうかがえ、その開削時期の検証は今後の課題である。掲載遺物無し（№102以外）。

2号溝（SD-2／第4・12図）

調査区北壁下を北東から南西方向へと走向する。東西2ヶ所にトレンチを設定し、遺構深度と断面形状を把握した。断面形状は逆台形であり、平均で幅2m・深さ70cm程度を測る。トレンチ内での底面レベルは東側が高く、その高低差は8cmである。遺構内は砂礫主体で埋没しているが、検出した底面は平滑であり通水痕跡は見出し難い。水路としての機能を想定するよりも、洪水によって一気に埋没した印象がある。出土遺物は土師器の極小破片のみであり遺構の時期決定できるものではない。重複関係ではSD-1・4・5より古く、SI-3より新しい。さらに調査区東側の谷地形が埋没した後の遺構と考えられる。よって平安時代、As-B降下以降の遺構と考えるが、その下限は明らかにできない。機能も不明ながら、「生原の砦」に関わる堀の可能性もあろう。掲載遺物無し。

3号溝（SD-3／第4・12図）

本遺構はSD-2に取り付き、同様に砂礫主体で埋没している。トレンチによる局所的な調査を行い、規模は幅74cm・深さ29cmを測る。断面形状は歪んだ丸底状で、SD-2とは形状を異にする。埋没時期はSD-2と同一と考えられるが、人為的な遺構かどうかは不明瞭である。洪水起因の自然流路の可能性もあろうか。出土遺物無し。

4～9号溝（SD-4～9／第4・12図）

これらの溝は、SD-7以外はトレンチによる部分的な調査、または平面プランの記録に留めた。すべて自然流路と判断している。全体的に出土遺物は土師器・須恵器が主体であり、明らかにそれ以降の遺物は含まれていない。さらに重複関係ではSZ-1周堀・SD-2・各住居跡よりも新しいことが分かる。これら自然流路の形成時期は

平安時代以降であるが、具体的には不明である。形成要因は洪水や豪雨によるものであろう。掲載遺物無し。

(3) 土坑

1 ～ 35 号土坑（SK-1 ～ SK-35 ／第 4・5・13・14 図）

調査した土坑は 35 基以上であるが、遺構番号を与えたものの中には現代遺物を出土したものも含まれる。それ以外のほとんどの土坑の覆土は褐灰色系の As-B 混土である。As-A の混入はしっかりと把握できなかったが、現代遺物を出土した土坑覆土と近似し、平面形態や軸方位も共通傾向にあるものが多い。そのため、これらの土坑の時期は、現代に帰属する可能性が高いと言える。しかし、現代遺物の出土などの直接的な判断材料が得られなかったものについては、極めて消極的ながらも中世段階まで遡り得る可能性を考慮し、本報告に掲載することとした。また、こうした褐灰色系 As-B 混土以外では SK-33 が SI-3 カマドを切る平安時代の土坑と考えられ、SK-34 が縄文時代の集石土坑の可能性がある。さらに、住居跡の上層断面のみで確認した土坑がいくつかあるが、これらには遺構番号を付与しなかった。各土坑の計測値は第 1 表にまとめた。掲載遺物無し（№ 95 以外）。

(4) 古墳

1 号墳（SZ-1 ／第 15・16 図）

位置・状態　調査対象地の南は東西方向の谷地形となっており、現在水田として土地利用がなされている。1 号墳は谷方向への地形の傾斜が強くなり始める調査区北西側で検出した。調査前の現況では墳丘はすでに存在せず、石室石材の可能性を予測させる自然石の集石があるのみであった。ところで、群馬県では昭和 13（1938）年に『上毛古墳綜覧』がまとめられ、県下一円の古墳分布が報告された。調査対象地の地番から推定して、本古墳はこれに記載された古墳のうち、「上郊村第 20 号墳」に該当すると考えられる。

墳丘・外部施設　墳丘は削平され既に存在しなかった。調査時の聞き取りによれば「今から 40 年ほど前に崩した」とのことである。『上毛古墳綜覧』では規模「大サ 12 尺」・「高サ 4 尺」と記載されており、昭和初年頃には小丘として残存していたことがわかる。調査では墳丘に相当する場所の地山（As-C を含む黒色土）の土色の発色状態が良好で、ここに墳丘が存在したことの傍証となった。葺石根石などの痕跡は皆無であったが、周堀内周からは墳丘直径 20m 程度の円墳が復元できる。また墳丘相当部のピットは全て現代のものである。

周堀は全体の約半分を調査したと思われ、南西側半分は調査区外になる。完掘を目指したが北側と北東側の一部は平面プランの記録のみに留めている。住居跡・溝・土坑と重複しており、全て本古墳より新しい。周堀の幅は 5 ～ 9m 程度で、北側が広く南側が狭くなる傾向がある。これは地形の傾斜に起因するものと考えられ、古墳築造時の地表面は南西側の勾配がもう少し平坦気味だった可能性もある。平面的には墳丘側の内周は比較的整っているが、外周では乱れる部分も存在する。断面形状は緩い丸底状で、北側が深く南側が浅い。深さは 40 ～ 50cm 前後である。上層断面の観察では、周堀は自然的に埋没したとみられる。覆土中からは複数の小礫が出土しており、これらは南側に集中する。20cm 前後の角閃石安山岩が主体であるが、極めて客体的に河原石も含まれる。周堀南側に限定的な出土状況であるが、墳丘側に集中傾向であることからみて、葺石の崩落を想定しておきたい。

埋葬施設　埋葬施設は残されておらず、掘り方などの石室構築に関わる痕跡すら皆無であった。ただし、表土上に存在した自然石の集石が石室石材であった可能性が考えられる。この集石はプライマリーな状態に無いことが判明したことから、おそらく墳丘削平と同時に石室も壊され、運搬し難い大振りの石が残されたものと考えた。

出土遺物　本古墳の周堀の調査ではスコップを多用した。ここには SI-6・7 や SD-4 ～ 6 などの重複遺構が存在したのだが、粗い掘り下げを行ったために、出土遺物の帰属に問題を残してしまった。すなわち、出土したほとんどの遺物を「周堀覆土」として包括的に取り上げてしまったことであり、本来的に周堀に帰属する遺物を明らかにし難いことである。しかし、これらの出土遺物の中で、平安時代以降の遺物は該当しないものと考えた。そうした観点から出土遺物を見返すと、武部回転ヘラ削りの須恵器杯（№ 71・72）が複数個体含まれており、これらが本古墳の周堀覆土に帰属するものとみなした。8 世紀初当頃までの埋葬を考えておきたい。さらに、前述のよう

な調査方法で掘り下げを行ったのであるが、埴輪の出土は皆無であり、調査区内での他遺構からも出土していない。

特記事項　『上毛古墳綜覧』記載の「上郊村第20号墳」では、「発掘の有無」の項目が「有」になっている。今回の調査ではこの記載を検証し得る状況を確認できなかったことを付記しておく。

(5) その他

埋没谷　調査区北東側の地形の落ち込みは埋没谷であることが判明した。ここにはAs-Bの純堆積が良好に存在しており、この直下に水田跡が存在する可能性が考えられた。そのためAs-Bを除去して直下面を精査したところ、畦畔の検出など、直接的に水田跡と判断できる根拠は得られなかった。ただし、As-B直下の十壌は粘性の強い黒色土であり、他遺跡でのAs-B直下水田跡の上壌に近似することは注意できる。調査時では、この黒色土面で湧水が認められた。また、As-Bの上層は洪水層によって埋没していた。

縄文時代の遺物　調査では少量の石器の他、縄文土器の破片が比較的多く出土したが、すべて遺構に伴うものではない。前期から後期にかけての遺物が出土しているが、中期に帰属するものが多い。これは「生原遺跡群」の当該期の様相に合致するが、前期の遺物が含まれていることには注目しておいてよいであろう。遺構ではSK-34が縄文時代の集石土坑の可能性を考えたが、ここでの出土遺物は無い。

トレンチ出土の遺物　平安時代の竪穴住居跡を確認するために、トレンチを多用した。そこから出土した遺物は各トレンチ出土としてまとめて取り上げたが、本来は竪穴住居跡に帰属したものが多いと考えられる。

V．まとめ

① 平安時代の竪穴住居跡が8軒見つかった。SI-3が9世紀前半、他は10世紀代と考え、SI-2が10世紀前半、SI-1・4～8が10世紀後半と判断した。とりわけSI-1は11世紀代まで下る可能性もある。

② 竪穴住居跡のうち、SI-1の覆土中にAs-Bの純堆積が認められた。これによってAs-B降下時におけるSI-1は、既に埋没途中の窪地であったことが判明した。前橋市の上西原遺跡では覆土にAs-Bが堆積する住居跡が複数軒調査されており、これらは住居廃絶からAs-B堆積までの埋没速度の比較例となる。

③ 調査区の北東側には埋没谷が存在した。As-B純層が堆積していたことから、平安時代には谷地形であったことが明らかである。調査ではAs-B直下の水田跡を示す具体的な根拠は得られなかったが、この谷に水田が営まれていた可能性は高いと考える。その場合、集落と生産域をセットとして把握できることになろう。

④ 平安時代の集落は生原遺跡群では多く調査されている。付近では生原八反畠遺跡や全徳森遺跡などで同時期の竪穴住居跡が見つかっており、これらと本遺跡の集落が有機的関係にあるものか注意したい。また、至近に瓦散布地が存在することは興味ある問題であり、時期的な検討をせねばならないものの、広範囲に分布する集落にとって、何らかの求心的な施設が存在した可能性を想定できる。

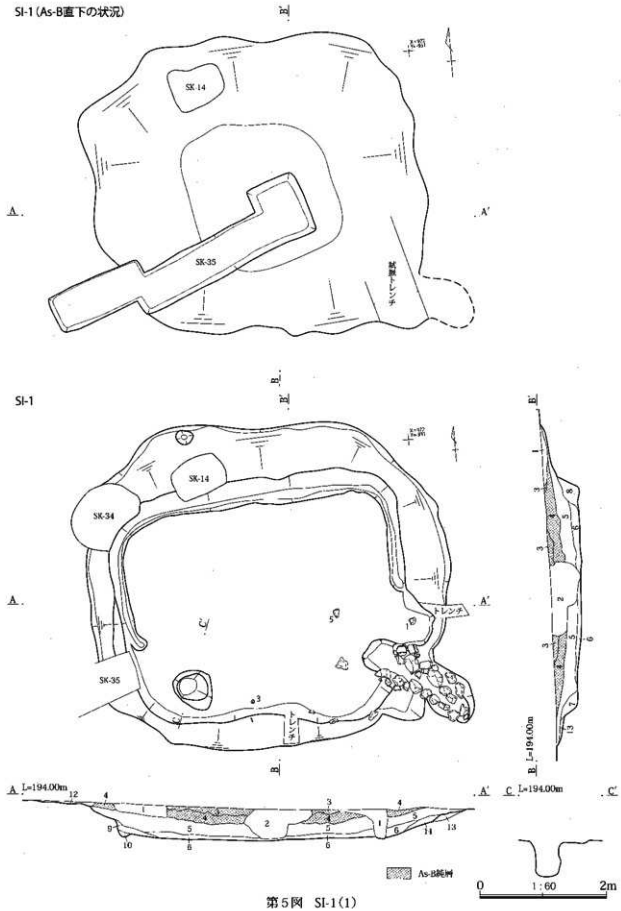
⑤ 本遺跡で調査した1号墳は『上毛古墳綜覧』記載の「上郊村第20号墳」に該当すると考えられる。墳丘・埋葬主体部ともに残っていないが、周囲の調査状況からは直径20m程度の円墳が復元できる。表土上に存在した集石からは自然石による横穴式石室の可能性が考えられるが、詳らかでない。出土遺物の帰属に難を残したものの、古墳時代終末期の古墳としてとらえた。埴輪の出土は皆無である。

⑥ 縄文時代の遺物が出土したが、明確な遺構に伴わない。周辺には当該期の集落が存在する可能性がある。

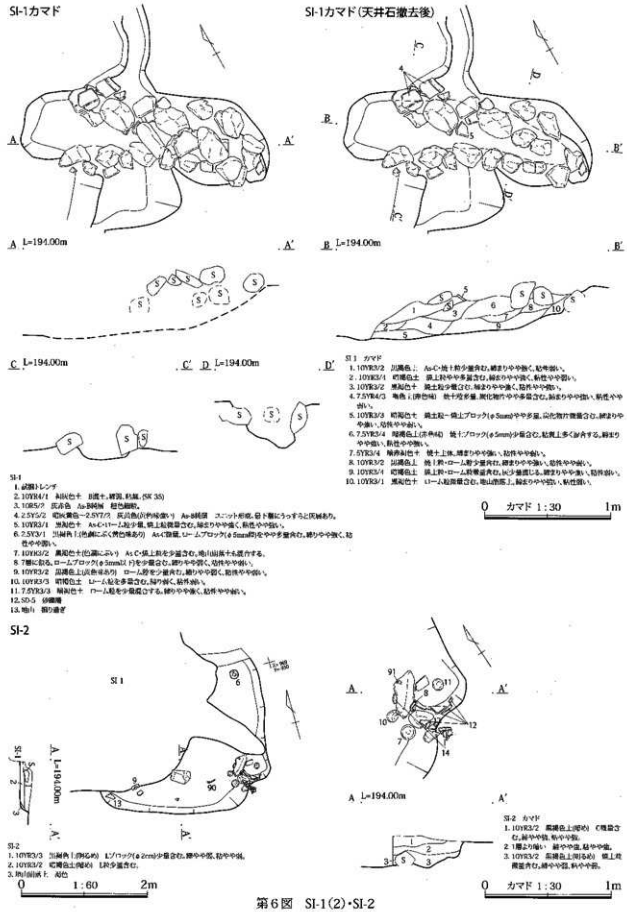
⑦ 中世の生原の砦に関係する遺構は見つからなかったが、SD-2が関係する可能性を予測したい。

⑧ 調査区内での洪水痕跡はAs-B降下以降を示す。洪水の時期の特定は今後の検証課題になろう。

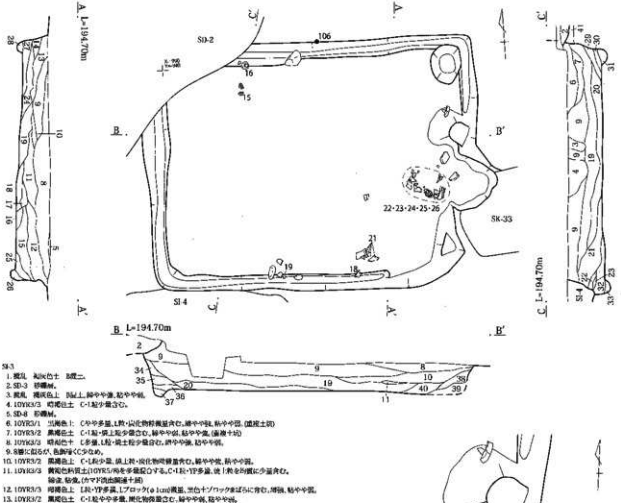
(参考文献)
出口　一郎　1988『海行A・B遺跡』箕郷町教育委員会
川原　嘉久治　1992「西上野における古瓦散布地の様相」『研究紀要』10　群馬県埋蔵文化財調査事業団
松出　猛　他　1999『上西原遺跡』群馬県教育委員会
笛林　真人　他　2007『生原八反畠遺跡』高崎市教育委員会
日沖　剛史　他　2009『全徳森遺跡』高崎市教育委員会


SI-1 (As-B直下の状況)
SK-14
SK-35
SI-1
SK-14
SK-34
SK-35
トレンチ
A
A'
B
B'
C
C'
L=194.00m
As-B純層
0
1:60
2m

第5図 SI-1(1)

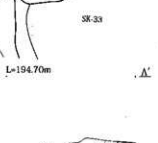

SI-1カマド
SI-1カマド(天井石撤去後)
A
A'
B
B'
A L=194.00m
B L=194.00m
C L=194.00m
C'
D L=194.00m
D'
SI-1
1. 砂質トレンチ
2. 10YR4/1 褐灰色土 粘質土,軟質,粘質.(SK 35)
3. 10R5/2 灰赤色 As-B純層 粒色細粒.
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色～2.5Y7/3 灰黄色(只色味強い) As-B純層 スニット形成.岩下層にうっすると灰褐あり.
5. 10YR3/4 黒褐色 As-C+ローム粒少量.焼土粒含む.結合やや強く.粘性やや強い.
6. 2.5Y3/1 黒褐色(土色にふく黄色味あり) As-C微量.ロームブロック(φ5mm)をやや多量含む.締りやや強く.粘性やや強い.
7. 10YR3/2 黒褐色土(色調にふい) As-C+焼土粒を少量含む.地山山岳ボも混在する.
8. 7層に似る.ロームブロック(φ5mm以下)を少量含む.締りやや弱く.粘性やや強い.
9. 10YR3/2 黒褐色土(灰色味あり) ローム粒を少量含む.締りやや弱く.粘性やや強い.
10. 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒を多量含む.粘性強い.
11. 7.5YR3/3 暗褐色土 ローム粒を少量含める.締りやや強く.粘性やや強い.
12. SD-5 側溝跡
13. 地山 掘り過ぎ
SI 1 カマド
1. 10YR3/2 黒褐色土 As-C+焼土粒少量含む.締まりやや強く.粘性弱い.
2. 10YR3/1 暗褐色土 焼土粒やや多量含む.結合やや強く.粘性やや弱い.
3. 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒少量含む.結合やや強く.粘性やや強い.
4. 7.5YR4/3 褐色 1(淡色味) 焼土粒多量.黒化物がやや多量含む.結合やや強い.粘性やや弱い.
5. 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒～焼土ブロック(φ5mm)やや多量.黒化物が微量含む.結合やや強い.粘性やや強い.
6. 7.5YR5/4 暗褐色土(赤味4) 焼土ブロック(φ5mm)少量含む.粘質土多く(砂)含まれる.締まりやや強い.粘性やや強い.
7. 5YR3/4 暗赤褐色土 焼土上塊.締まりやや強い.粘性やや強い.
8. 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒+ローム粒少量含む.締まりやや強い.粘性やや強い.
9. 10YR5/4 暗褐色土 焼土粒+ローム粒微量含む.b層混じる.締まりやや強い.粘性弱い.
10. 10YR3/1 黒褐色土 ローム粒微量含む.地山由来(上).結合やや強い.粘性強い.
0 カマド 1:30 1m
SI-2
1. 10YR3/3 黒褐色土(明るめ) Lブロック(φ2cm)少量含む.締まりや弱.粘性やや強.
2. 10YR3/2 暗褐色土(明るめ) LR少量含む.
3. 地山面(ボ. 硬)
SI 1
A L=194.00m
A'
0 1:60 2m
SI-2 カマド
1. 10YR3/2 黒褐色土(明るめ) C粒含む.結合やや強.粘性やや強.
2. 1層より暗い 結合やや強.粘性やや強.
3. 10YR3/2 黒褐色土(明るめ) 焼土粒微量含む.締まりやや弱.粘性やや強.
0 カマド 1:30 1m

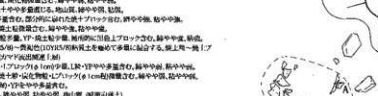
第6図 SI-1(2)・SI-2



SI-3

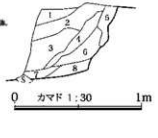
1. 褐灰　粘質土　土器一点。
2. SD-3　砂礫層。
3. 黒褐　埋戻土　ローム土、砂やや多、粘やや強。
4. 10YR3/3　暗褐土　C-1粒少量含む。
5. SD-8　砂礫層。
6. 10YR3/1　黒褐色土　C-やや多量、LB1・炭化物粒微量含む、締やや強、粘やや弱。(遺構土層)
7. 10YR3/2　黒褐色土　C-1粒・炭上粒少量含む、粘やや強、砂やや強。(遺構土層)
8. 10YR3/2　暗褐色土　C多量、LB2・焼土粒少量含む、締やや強、粘やや弱。
9. 褐灰に似るが、色調明るくなる。
10. 10YR3/2　黒褐色土　C-1粒少量、炭上粒・炭化物微細量含む、粘やや強、砂やや弱。
11. 10YR3/3　黄褐色粘質土(10YR5/6)を多量混入する。C-1粒・YP多量、炭1粒を所々に少量含む。
　　砂礫、砂質。(カマド西北部埋土部)
12. 10YR3/3　暗褐色土　LB1・YP多量、LブロックC(φ1cm)微量、黒色土ブロックがまばらに存在。締強、粘やや弱。
13. 10YR3/2　黒褐色土　C-1粒やや多量、黒化物微量含む、粘やや弱、砂やや強。
14. 10YR3/2　黒褐色土　LB2少量、焼土ややや多量混ぜる。地山混、締やや弱、粘強。
15. 10YR3/2　黒褐色土　LB1・YPやや多量含む。焼ノ所に見られた焼土ブロック含む。締やや強、砂やや強。
16. 10YR3/2　黒褐色土　LB2・YPS少量、焼土微量含む。粘やや強、砂やや強。
17. 10YR3/4　暗褐色土　黄褐色粘質土粒多量、YP・焼土粒少量、地山(10YR5/6)黒色土ブロック含む。締やや強、粘強。
18. 10YR3/3　暗褐色土　地山色(7.5YR5/6)一黄褐色(10YR5/8)粘質土を細かく混合する。炭上粒一焼ミブロック(φ5mm)多量含む。締強、砂強。(カマド南北断面下部)
19. 10YR3/2　黒褐色土　色調に近いA-1ブロック(φ1cm)少量、LB1・YPやや多量含む。締やや強、粘やや強。
20. 10YR3/1　黒褐色土　LB1・YP少量、焼土・炭・焼粒・ミブロック(φ1cm)微量含む。締やや強、粘やや強。
21. 20層に似るが、LB1・ブロックC(φ1cm)やYPをやや多量含む。
22. 10YR3/2　黒褐色土　遺人物少ない。締やや弱、粘やや弱、地山混。(埋戻山砂ヶ)
23. 10YR3/4　暗褐色土　色調に近いA-1ブロックC、LB1・YPS少量含む。地山混。(埋戻山砂部上)
24. 10YR2/1　黒色土　色調に近いC-1ブロックC、YP少量含む。締やや強、粘やや強、地山混。
25. 10YR3/4　暗褐色土　1粒やや多量含む。締やや強、粘やや強。
26. 10YR3/4　暗褐色土(黄色味)　YPやや多量含む。締やや強、粘やや強。
27. 10YR3/2　黒褐色土　YPやや多量含む。締やや強、粘やや強。
28. 10YR3/3　暗褐色土　YP多量含む。締やや強、粘やや強。
29. 10YR3/1　黒褐色土　粘質層状。締やや強、粘やや強。
30. 10YR3/1　黒褐色土　YP少量含む。締やや強、粘やや強。
31. 10YR3/1　黒褐色土　YPやや多量含む。地床内には焼集ブロック状になる。締やや強、粘やや強。
32. 10YR3/2　黒褐色土　LB1・ブロックC(φ1cm)やや多量含む。締やや強、粘やや弱。
33. 10YR3/2　黒褐色土　炭粒、焼土を含む。締やや強、粘やや強。
34. 10YR3/3　暗褐色土　C-1粒少量含む。締やや強、粘やや強、粒が細、(壁が崩落土)
35. 34層に似るが、色調が遺人物少ない。地山混。(壁崩落部上)
36. 10YR3/2　黒褐色土　LB2粒少量含む。締弱、粘やや強、地山混。(壁崩落部上)
37. 10YR3/2　黒褐色土　YPやや多量含む。締弱、粘やや強。
38. 10YR3/3　暗褐色土　黄褐色粘質土ブロック、黒色土ブロックをやや多量含む(10層よりやないが、LB2・焼土粒少量含む。
　　粘質土、砂強、砂強。
39. カマド下層。
40. 10YR3/2　黒褐色土　黄褐色粘質土ブロック・黒色土ブロックを多量含む(38層よりやないが、LB2・焼土粒少量含む。
　　砂強、砂強。
41. 地山





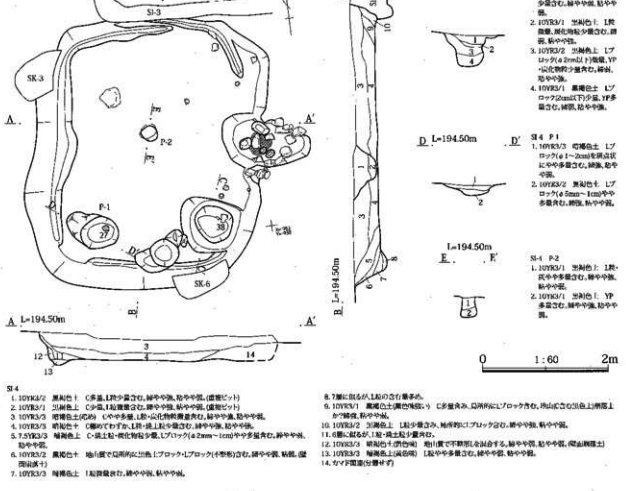
SI-3　カマド

1. 7.5YR3/2　黒褐色土　LブロックC含む、焼土粒少量含む。締やや強、粘やや強。
2. 5YR5/6　明赤褐色土　粘土層合。焼上粒多量含む。締やや強、粘強。
3. 2.5R2/1　黒色土　焼ノ多い。焼粒、粘土層の下部。
4. 10R5/8　赤色土　粘土上部の遺存。締やや強、粘やや強。
5. 10R5/8　赤色土　焼土上層。
6. 10YR3/3　暗褐色土　焼土・炭ノ粒含む。締やや弱、粘やや弱、砂やや強。
7. 2.5YR2/1　黒色　炭やや多。
8. 5YR4/4　にぶい赤褐色土　焼土・YP多量含む。締やや強、粘やや強。

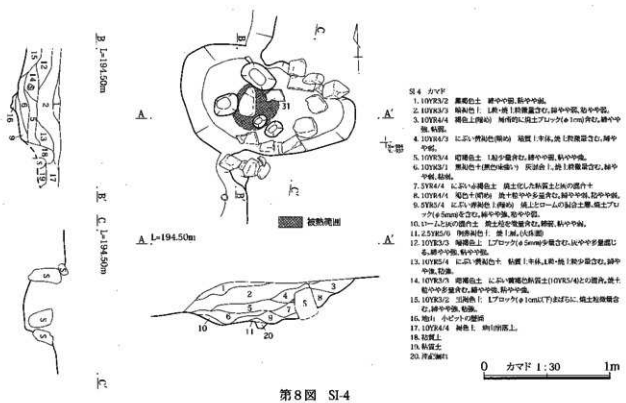


0　1:60　2m

第7図　SI-3

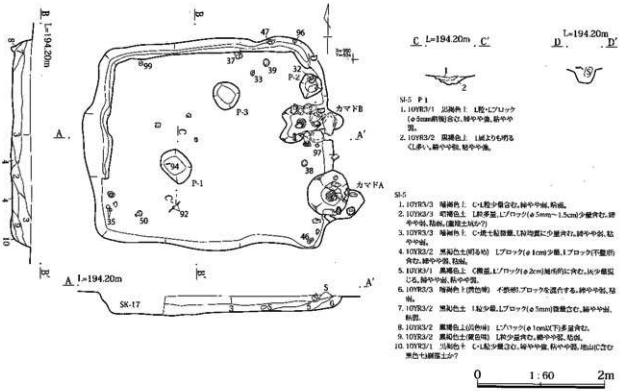


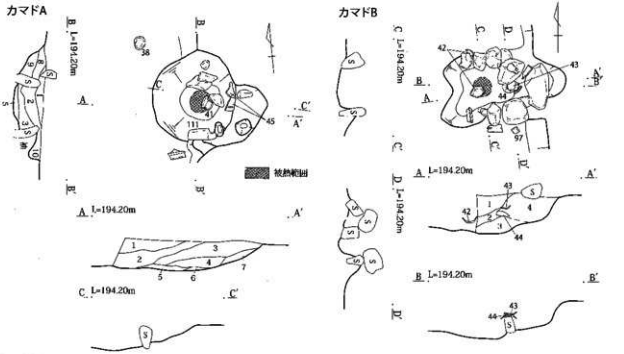
SI 4
1. 10YR3/2 黒褐色土 C多量,L粒少量含む,締やや強,粘やや強,(炭粒ビット)
2. 10YR3/1 黒褐色土 C少量,L粒微量含む,締やや強,粘やや弱,(炭粒ビット)
3. 10YR3/3 暗褐色土(SI4) (いやや多量,L粒・小石色粒微量含む,粘やや強,粘やや弱.
4. 10YR3/3 暗褐色土 C微かでわずか,L粒・焼土粒少量含む,締やや強,粘やや強.
5. 7.5YR3/3 褐褐色土 C・焼土粒・褐色粒少量,Lブロック(φ2mm～1cm)やや少量含む,締やや弱,粘やや強.
6. 10YR3/2 黒褐色土 地山面で局所的に出現.Lブロック・Lブロック(不整形)含む,締やや弱,粘弱.(焼土粒微小)
7. 10YR3/3 褐褐色土 L粒微量含む,締やや弱,粘やや弱.
8. 7.5YR3/1 黒褐色土(黒色味強い) C多量含み,局所的にLブロック含む,地山(ローム)土が混入,粘やや強.
9. 10YR3/1 黒褐色土(黒色味強い) C多量含み,局所的にLブロック含む,地山(ローム)土が混入,粘やや強.
10. 10YR3/2 黒褐色土 L粒少量含み,局所的にLブロック含む,締やや強,粘やや弱.
11. 6層に似るが,L粒・焼土粒少量含む.
12. 10YR3/3 暗褐色土(黒色味) 地山面で不整形に分布する,締やや弱,粘やや強,(焼土粒微小)
13. 10YR3/3 褐褐色土(褐色味) L粒やや多量含む,締やや弱,粘やや弱.
14. カマド周囲(分離せず)



SI 4 カマド
1. 10YR3/2 黒褐色土 締やや弱,粘やや強.
2. 10YR3/3 暗褐色土 L粒・焼土粒微量含む,締やや弱,粘やや弱.
3. 10YR4/4 褐色土(褐色) 地山粒L焼土ブロック(φ1cm)含む,締やや強,粘弱.
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色(褐色) 地質土,L粒,焼土粒微量含む,締やや弱.
5. 10YR5/4 明褐色土 L粒少量含む,締やや強,粘やや強.
6. 10YR3/1 黒褐色土(黒色味強い) 灰混合L,焼土粒微量含む,締やや弱,粘弱.
7. 5YR4/4 にぶい赤褐色土 焼土化した粘質土と灰の混合土
8. 10YR4/4 褐色土(明色) 焼土粒やや多量含む,締やや弱,粘やや弱.
9. 5YR5/4 にぶい赤褐色土(褐色) 焼土とロームの粘土土壁,焼土ブロック(φ5mm)を含む,締やや強,粘やや強.
10. ローム土と灰の混合土 焼土粒を微量含む,締弱,粘やや強.
11. 2.5YR5/6 明赤褐色土 焼土,L,灰,(ローム)
12. 10YR3/3 暗褐色土 Lブロック(φ5mm)多量含む,灰やや多量含む,締やや強,粘やや強.
13. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘質土,L粒・焼土粒少量含む,締やや強,粘弱.
14. 10YR3/3 暗褐色土 にぶい黄褐色粘質土(10YR5/4)との混合,焼土粒やや多量含む,締やや強,粘やや強.
15. 10YR3/2 黒褐色土 Lブロック(φ1cm以下)およびL,焼土粒微量含む,締やや強,粘弱.
16. 地山 小ピットの壁面
17. 10YR4/4 褐色土 地山削落土.
18. 灰層土
19. 粘質土
20. 焼成面(L)

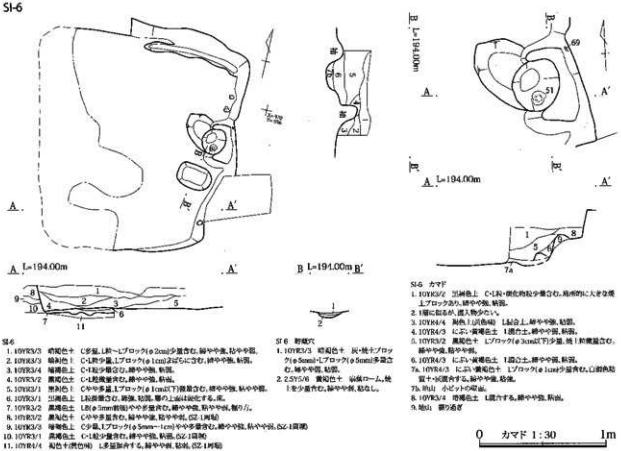
第8図 SI-4


B L=194.20m
A
A L=194.20m
A'
SK-17
P-1
P-2
P-3
カマドA
カマドB
C L=194.20m
C'
D L=194.20m
D'
SI-5 P1
1. 10YR3/1 黒褐色土 L粒+Lブロック(φ5cmが個)含む、粘やや強、粘強。
2. 10YR3/2 黒褐色土 L粒多量、Lブロック(φ5mm~1.5cm)少量含む、締やや弱、粘強。(腐植土ベルト)
3. 10YR3/3 暗褐色土 C・焼土粒微量、L粒均質に少量含む、粘やや弱、粘やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土(明るめ) Lブロック(φ1cm)少量、Lブロック(不整形)含む、粘やや弱、粘強。
5. 10YR3/1 黒褐色土 C微量、Lブロック(φ2cm)地床部に含む、粘少量混じる、粘やや弱、粘やや強。
6. 10YR3/3 暗褐色土(淡色味) イガ状ブロックを混合する、粘やや弱、粘強。
7. 10YR3/2 黒褐色土 L粒少量、Lブロック(φ5mm)微量含む、粘やや弱、粘強。
8. 10YR3/2 黒褐色土(淡色味) Lブロック(φ1cm以下)多量含む。
9. 10YR3/2 黒褐色土(淡色味) L粒少量含む、粘やや弱、粘強。
10. 10YR3/1 黒褐色土 (・)L粒少量含む、粘やや強、粘やや強。地山に含む黒色も細粒土か?
SI-5
1. 10YR3/3 暗褐色土 C・L粒少量含む、粘やや強、粘強。
2. 10YR3/2 明褐色土 L粒多量、Lブロック(φ5mm~1.5cm)少量含む、締やや弱、粘強。(腐植土ベルト)
3. 10YR3/3 暗褐色土 C・焼土粒微量、L粒均質に少量含む、粘やや弱、粘やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土(明るめ) Lブロック(φ1cm)少量、Lブロック(不整形)含む、粘やや弱、粘強。
5. 10YR3/1 黒褐色土 C微量、Lブロック(φ2cm)地床部に含む、粘少量混じる、粘やや強、粘やや強。
6. 10YR3/3 暗褐色土(淡色味) イガ状ブロックを混合する、粘やや弱、粘強。
7. 10YR3/2 黒褐色土 L粒少量、Lブロック(φ5mm)微量含む、粘やや弱、粘強。
8. 10YR3/2 黒褐色土(淡色味) Lブロック(φ1cm以下)多量含む。
9. 10YR3/2 黒褐色土(淡色味) L粒少量含む、粘やや弱、粘強。
10. 10YR3/1 黒褐色土 (・)L粒少量含む、粘やや強、粘やや強。地山に含む黒色も細粒土か?
0 1:60 2m


カマドA
カマドB
B L=194.20m
A
A L=194.20m
A'
C'
被熱範囲
C L=194.20m
C'
D L=194.20m
D'
B L=194.20m
B'
SI-5 カマドA
1. 10YR3/3 明褐色土 C・L粒少量、焼土粒微量含む、締やや強、粘やや強。
2. 10YR3/2 黒褐色土 L粒少量、C・焼土粒微量含む、締やや弱、粘やや強。
3. 10YR3/4 暗褐色土 粘質土多量含む、締やや弱、粘やや強。
4. 7.5YR5/4 褐色土(焼土) 被熱層とする。地床部にLブロック含む、締強、粘やや強。
5. 暗褐色土と灰の混合土
6. 黒褐色土+焼土の混合土
7. 10YR3/1 黒褐色土 灰+焼土・L粒を均質に含む、締やや強、粘強。
8. 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土粒、L粒少量含む、締弱、粘強。
9. 10YR3/3 暗褐色土 L粒・Lブロック(イガ型)やや多く含む、締弱、粘なし。
10. 10YR3/2 黒褐色土 焼けたLブロックを地山部に含む、締やや弱、粘やや強。
SI-5 カマドB
1. 10YR3/3 暗褐色土 L粒微量含む、締やや強、粘やや強。
2. 10YR3/2 黒褐色土 Lブロック(不整形)まばらに含む、締やや強、粘やや強。
3. 10YR3/2 黒褐色土 Lブロック(不整形)少量含む、締やや強、粘やや強。
4. 10YR3/2 黒褐色土 L粒少量含む、締やや弱、粘やや強。
0 カマド 1:30 1m

第9図 SI-5

SI-6

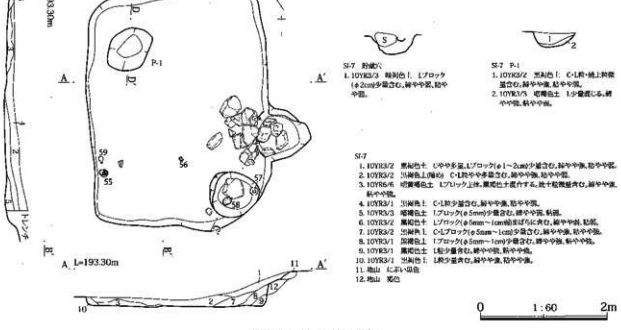


SI-6
1. 10YR3/3 暗褐色土 C多量、LB中～Lブロック(φ2cm)少量含む、締りやや強、粘りやや弱。
2. 10YR3/3 暗褐色土 C-LB少量、Lブロック(φ1cm)まばらに含む、締りやや強、粘弱。
3. 10YR3/4 暗褐色土 C-LB少量含む、締りやや強、粘弱。
4. 10YR3/2 黒褐色土 C-LB微量含む、締りやや強、粘強。
5. 10YR3/1 黒褐色土 Cやや多量、Lブロック(φ1cm)下層量含む、締りやや強、粘やや弱。
6. 10YR3/1 黒褐色土 LB炭微含む、締強、粘強、層の上面は硬化する。床。
7. 10YR3/2 黒褐色土 LB(φ5mm前後)やや多量含む、締りやや強、粘やや弱、層の下。
8. 10YR3/2 黒褐色土 Cやや多量含む、締りやや強、粘やや弱。(SZ-1周辺)
9. 10YR3/3 暗褐色土 C少量、Lブロック(φ5mm～1cm)やや多量含む、締やや強、粘やや弱。(SZ-1周辺)
10. 10YR3/1 黒褐色土 C-LB少量含む、締やや強、粘弱。(SZ-1周辺)
11. 10YR4/4 褐色土(黄色味) LB量顕著である、締やや弱、粘弱。(SZ-1周辺)

SI-6 貯蔵穴
1. 10YR3/3 暗褐色土 灰・焼土ブロック(φ5mm)L ブロック(φ5mm)多量含む、締やや強、粘弱。
2. 2.5Y5/6 黄褐色土 粘質ローム、焼土を少量含む、締やや弱、粘なし。

SI-6 カマド
1. 10YR3/2 黒褐色土 C-LB・焼化物粒少量含む、焼成的に大きな焼土ブロック含む、締やや強、粘弱。
2. 1層に似るが、焼土物少ない。
3. 10YR4/4 褐色土(黄色味) LB合土、締やや強、粘弱。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 1層合土、締やや弱、粘弱。
5. 10YR3/2 黒褐色土 Lブロック(φ3cm以下)少量、焼1粒含む、締やや強、粘やや弱。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 1層合土、締やや弱、粘弱。
7a. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 Lブロック(φ1cm)少量含む、口縁部粘質土が炭化する。締やや強、粘強。
7b. 焼山 小ピットの埋め。
8. 10YR3/4 暗褐色土 L混ざる、締やや強、粘弱。
9. 地山 黄ボ質ボ

SI-7



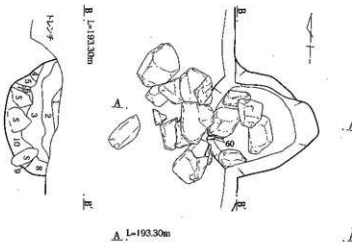
SI-7 貯蔵穴
1. 10YR3/3 暗褐色土 Lブロック(φ2cm)少量含む、締やや強、粘やや弱。

SI-7 P-1
1. 10YR3/2 黒褐色土 C-LB・焼土上面微量含む、締やや強、粘やや弱。
2. 10YR3/4 暗褐色土 1少量混じる、締やや強、粘やや強。

SI-7
1. 10YR3/2 黒褐色土 Cやや多量、Lブロック(φ1～2cm)少量含む、粘やや強、粘やや弱。
2. 10YR3/2 黒褐色土 C-LBやや多量含む、締やや強、粘やや強。
3. 10YR6/6 明黄褐色土 Lブロック上層、黒褐色土混在する。焼土粒微量含む、締やや強、粘やや弱。
4. 10YR3/1 黒褐色土 C-LB少量含む、締やや強、粘やや弱。
5. 10YR3/3 暗褐色土 Lブロック(φ5mm)少量含む、締やや弱、粘弱。
6. 10YR3/2 黒褐色土 Lブロック(φ5mm～1cm)まばらに含む、締やや弱、粘弱。
7. 10YR3/2 黒褐色土 C-Lブロック(φ5mm～1cm)少量含む、締やや強、粘やや強。
8. 10YR3/1 黒褐色土 Lブロック(φ5mm～1cm)少量含む、締やや強、粘やや強。
9. 10YR3/1 黒褐色土 LB少量含む、締やや強、粘やや強。
10. 10YR3/1 黒褐色土 LB少量含む、締やや強、粘やや強。
11. 焼山 にぶい黄色
12. 焼山 黒色

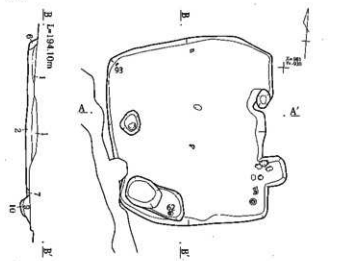
第10図 SI-6・SI-7(1)

SI-7カマド

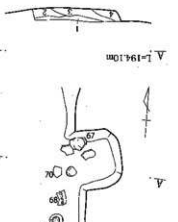


SI-7 カマド
1. 10YR3/3 暗褐色土 1ブロック(不整形)始めて多量含む。締やや弱、粘やや弱。
2. 10YR3/2 黒褐色土 C-1即-後1黒赤少量含む。締やや強、粘やや強。
3. 10YR3/2 黒褐色土 1粒～ピブロック(不整形)を極めて多量含む。層分的に地上が多量混じる。締やや強、粘やや強。
4. 10YR3/3 暗褐色土 1粒少量含む。締やや弱、粘弱。
5. 10YR3/2 黒褐色土 1粒～焼土粒少量含む。締やや弱、粘弱。
6. 5YR4/8 赤褐色土 締1半強。
7. 10YR3/1 黒褐色土 1粒赤量含む。粘弱強、締弱、粘弱。
8. 10YR3/2 黒褐色土 1粒やや多量、焼土粒少量含む。締やや強、粘やや強。
9. 10YR3/2 黒褐色土 1ブロック(不整形)多量含む。締やや弱、粘やや弱。
10. 10YR3/1 黒褐色土 粘れた土を多量含む。部分的に焼土と炭が混じる。締やや弱、粘やや強。
11. 10YR3/3 暗褐色土 焼1ブロックを少量含む。締やや強、粘やや強。
12. 10YR3/2 黒褐色土 C少量、焼1黒-粘質もブロック含む。締やや弱、粘やや弱。
13. 10YR4/4 褐色土 焼土との混合土。締やや強、粘やや弱。
14. 10YR3/1 黒褐色土 1粒少量含む。締やや強、粘やや強。
15. 10YR3/1 黒褐色土 焼土・炭・1が混じる。締やや弱、粘弱。

SI-8



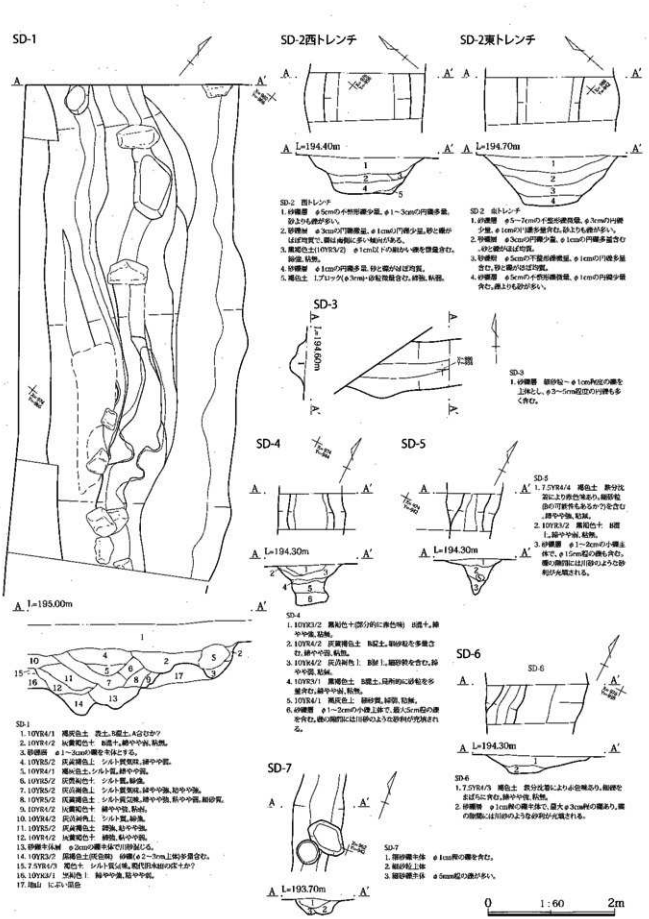
SI-8
1. 10YR3/2 黒褐色土 C-1ブロック(φ5mm)少量含む。締やや弱、粘弱。
2. 10YR3/1 黒褐色土 C少量、1ブロック(φ1cm以下)まばらに含む。締やや弱、粘弱。
3. 10YR3/2 黒褐色土(黒色帯) 1粒少量含む。締やや強、粘弱。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色土(帯状) 1混合土。
5. 4層と同一層
6. 10YR3/4 暗褐色土(黄色味) 粘人間少ない。締やや弱、粘弱。
7. 10YR4/6 褐色土(黄色味) 1混合土。締やや弱、粘やや強。
8. 10YR3/3 暗褐色土(黄色味) 1ブロック(φ1cm以下)やや多量含む。締やや強、粘弱。
9. 10YR3/2 黒褐色土 1粒少量含む。締やや弱、粘弱。(基盤土化)
10. 10YR4/6 褐色土 粘れた土との混合土。硬質、粘弱。(地質土化)



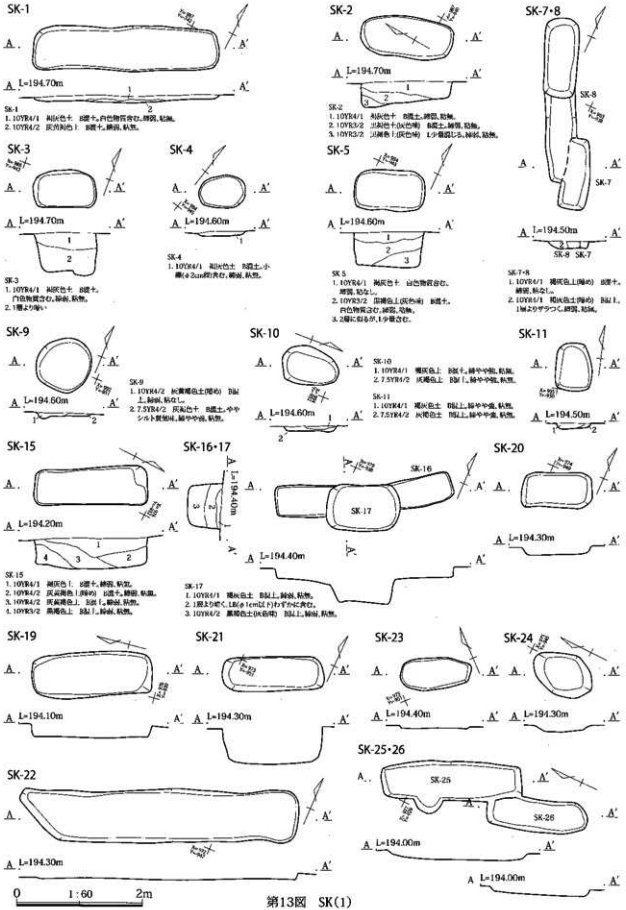
SI-8 カマド
1. 10YR3/3 暗褐色土 1ブロック(φ1cm以後)少量、焼土ブロック(φ1cm以下)微量含む。締やや弱、粘やや強。
2. 10YR2/1 黒色 炭を多量、1粒少量、焼土粒微量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土 1粒～焼土粒少量含む。締やや強、粘やや弱。
4. 10YR3/2 黒褐色土 ピパラック(不規則)と焼土ブロックを少量含む。締やや弱、粘やや強。

0 カマド 1:30 1m
0 1:60 2m

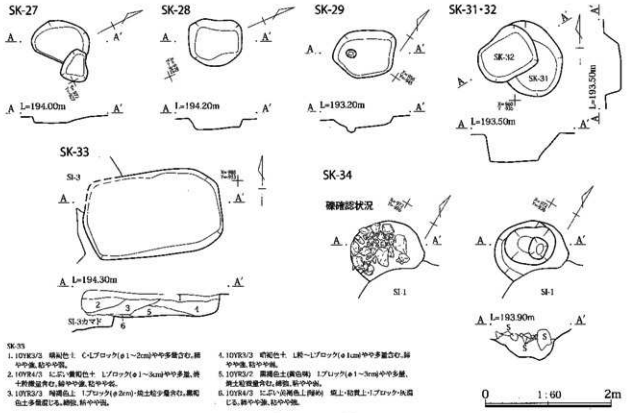
第11図 SI-7(2)・SI-8


SD-1
A
A'
L=195.00m
SD-2西トレンチ
SD-2東トレンチ
L=194.40m
L=194.70m
SD-2 西トレンチ
1. 砂礫層 φ5cmの小形礫少量、φ1～3cmの円礫多量、砂よりも礫が多い。
2. 砂層層 φ3cmの円礫多量、φ1cmの円礫少量、砂と礫がほぼ同じ。礫は南側に多い傾向がある。
3. 黒褐色土(10YR3/2) φ1cm以下の細かい礫を微量含む。締まる。
4. 砂層層 φ1cmの円礫多量、砂と礫がほぼ均質。
5. 褐色土 1.7ブロック(φ3cm)・砂粒微量含む。締まる。粘質。
SD-2 東トレンチ
1. 砂礫層 φ5～7cmの小型形礫微量、φ3cmの円礫少量、φ1cmの円礫多量含む。砂よりも礫が多い。
2. 砂礫層 φ3cmの円礫少量、φ1cmの円礫多量含む。砂と礫がほぼ均質。
3. 砂礫層 φ5cmの不揃の礫微量、φ1cmの円礫多量含む。砂と礫がほぼ均質。
4. 砂礫層 φ5cmの小形形礫微量、φ1cmの円礫少量含む。細よりも砂が多い。
SD-3
L=194.60m
1. 砂礫層 細砂粒～φ1cm程度の礫を主体とし、φ3～5cm程度の円礫も多く含む。
SD-4
L=194.30m
SD-4
1. 10YR3/2 黒褐色土(部分的に黄色味) 粘質土。締まる。粘質。
2. 10YR4/2 灰黄褐色土 粘質土。砂粒を多量含む。締まる。粘質。
3. 10YR4/2 灰白褐色土 粘質土。細砂粒を含む。締まる。粘質。
4. 10YR3/1 黒褐色土 粘質土。局所的に砂粒を多量含む。締まる。粘質。
5. 10YR4/1 黒灰色土 粘質土。締まる。粘質。
6. φ1cm程度 φ1～2cmの小礫上体で、最大5cm程の礫を含む。礫の間隙には砂のような砂利が充填される。
SD-5
L=194.30m
SD-5
1. 7.5YR4/4 褐色土 表分化著しく分布先端から、細砂粒部の可能性もあるが全体に締まりを強、粘質。
2. 10YR3/2 黒褐色土 粘質土。締まりを強、粘質。
3. 砂礫層 φ1～2cmの小礫上体で、φ15cm程の礫も含む。礫の間隙には砂のような砂利が充填される。
SD-6
L=194.30m
SD-6
1. 7.5YR4/3 褐色土 表分化著しくより赤味帯び。細砂をまばらに含む。締まりを強、粘質。
2. 砂礫層 φ1cm程の礫を体で、最大φ3cm程の礫あり。礫の間隙には砂のような砂利が充填される。
SD-7
L=193.70m
SD-7
1. 階砂礫主体 φ1cm程の礫を含む。
2. 細砂粒上体
3. 細砂礫主体 φ5mm程の礫が多い。
0 1:60 2m

第12図 SD-1～7


SK-1
A L=194.70m A'
SK-1
1. 10YR4/1 褐灰色土 8層十。白色物質含む。締弱。粘無。
2. 10YR4/2 灰黄褐色 1 8層十。締弱。粘無。
SK-2
A L=194.70m A'
SK-2
1. 10YR4/1 褐灰色十 8層上。締弱。粘無。
2. 10YR3/2 黒褐色十(灰色味) 8層上。締弱。粘無。
3. 10YR3/2 黒褐色 1(灰色味) 1少量混じる。締弱。粘無。
SK-7・8
SK-8
SK-7
A L=194.50m A'
SK-8 SK-7
SK-7・8
1. 10YR4/1 褐灰色上(褐色) 8層十。締弱。粘なし。
2. 10YR4/1 褐灰色土(褐色) 8層上。1層よりサラサラ。締弱。粘無。
SK-3
A L=194.70m A'
SK-3
1. 10YR4/1 褐灰色十 8層十。白色物質含む。締弱。粘無。
2. 1層より薄い。
SK-4
A L=194.60m A'
SK-4
1. 10YR4/1 褐灰色土 8層土。小礫(φ2cm程)含む。締弱。粘無。
SK-5
A L=194.60m A'
SK-5
1. 10YR4/1 褐灰十 白色物質含む。締弱。粘なし。
2. 10YR3/2 黒褐色上(灰色味) 8層十。白色物質含む。締弱。粘無。
3. 2層に似るが、1少量含む。
SK-9
A L=194.60m A'
SK-9
1. 10YR4/2 灰黄褐色土(褐色) 8層上。締弱。粘なし。
2. 7.5YR4/2 灰褐色十 8層土。ややシルト質強。締やや強。粘無。
SK-10
A L=194.60m A'
SK-10
1. 10YR4/1 褐灰色上 8層十。締やや強。粘無。
2. 7.5YR4/2 灰褐色上 8層十。締やや強。粘無。
SK-11
A L=194.50m A'
SK-11
1. 10YR4/1 褐灰色土 8層上。締やや強。粘無。
2. 7.5YR4/2 灰褐色土 8層上。締やや強。粘無。
SK-15
A L=194.20m A'
SK-15
1. 10YR4/1 褐灰色上 8層十。締弱。粘なし。
2. 10YR4/2 灰黄褐色上(褐色) 8層十。締弱。粘無。
3. 10YR4/2 灰黄褐色上 8層上。締弱。粘無。
4. 10YR3/2 黒褐色上 8層上。締弱。粘無。
SK-16・17
A L=194.40m A'
SK-16
SK-17
A L=194.40m A'
SK-17
1. 10YR4/1 褐灰色土 8層上。締弱。粘無。
2. 1層よりやくしまる。1層φ1cm以上がまばらに含む。
3. 10YR4/2 黒褐色土(灰色味) 8層上。締弱。粘無。
SK-20
A L=194.30m A'
SK-19
A L=194.10m A'
SK-21
A L=194.30m A'
SK-23
A L=194.40m A'
SK-24
A L=194.30m A'
SK-22
A L=194.30m A'
SK-25・26
SK-25
SK-26
A L=194.00m A'
A L=194.00m A'
0 1:60 2m

第13図 SK(1)



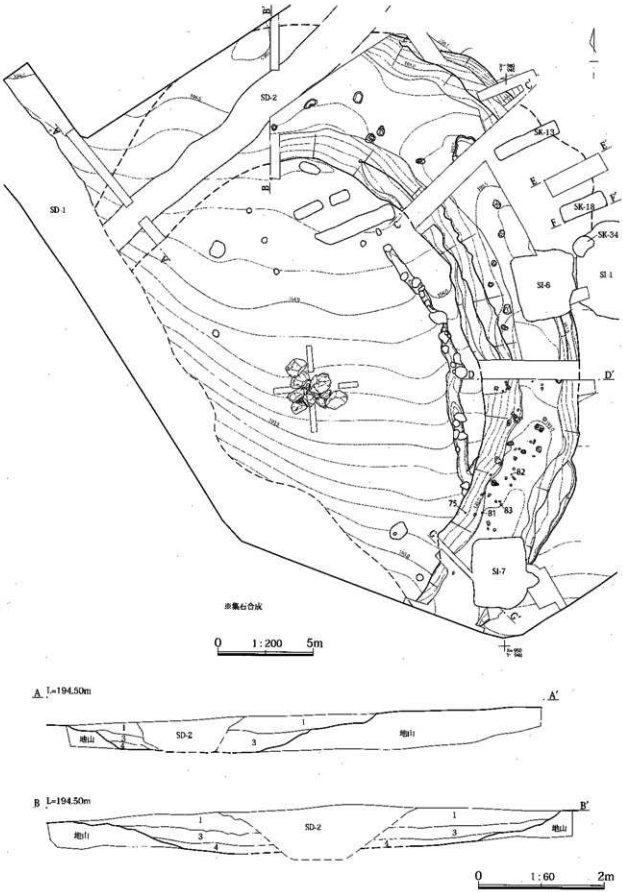
SK-33

1. 10YR3/3 暗褐色土 C-1ブロック(φ1～2mm)やや多量含む。締やや強、粘やや強。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 1ブロック(φ1～3cm)やや多量、焼土粒微量含む。粘強、粘やや強。
3. 10YR3/3 暗褐色土 1ブロック(φ2cm)・焼土粒少量含む。黒褐色土多量混じる。締弱、粘やや強。
4. 10YR3/3 暗褐色土 1粒～1ブロック(φ1cm)やや多量含む。締やや強、粘やや強。
5. 10YR3/2 黒褐色土(黄色味) 1ブロック(φ1～3cm)やや多量、焼土粒微量含む。締弱、粘やや強。
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 1粒状 焼土・粘質上ブロック・炭混じる。締やや強、粘やや強。

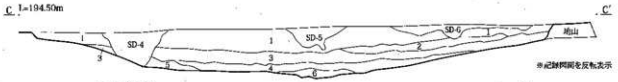
第14図 SK(2)

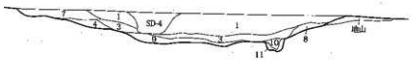
第1表 土坑計測値など一覧表

番号	位置	平面形態	長軸方向	規模（長×幅×深）cm	覆土	出土遺物	備考	掲載図
SK-1	X=987・Y=-742 付近	隅丸長方形	N-63°-E	298 × 75 × 13	褐灰色B混土	土師器・須恵器・陶器など		第13図
SK-2	X=987・Y=-940 付近	楕円形	N-24°-W	148 × 68 × 41	褐灰色B混土			第13図
SK-3	X=986・Y=-942 付近	隅丸長方形	N-70°-E	102 × 61 × 68	褐灰色B混土			第13図
SK-4	X=984・Y=-945 付近	楕円形	N-49°-E	74 × 53 × 7	褐灰色B混土			第13図
SK-5	X=984・Y=-943 付近	隅丸長方形	N-87°-E	113 × 66 × 57	褐灰色B混土			第13図
SK-6	X=983・Y=-940 付近	隅丸長方形	N-87°-E	91 × 62 × 57	褐灰色B混土	ビニール・上師器・須恵器など	現代土坑	第4図
SK-7	X=983・Y=-938 付近	隅丸長方形	N-17°-W	114 × 46 × 11	褐灰色B混土	上師器・須恵器・近世染付など		第13図
SK-8	X=983・Y=-938 付近	隅丸長方形	N-24°-W	263 × 56 × 12	褐灰色B混土	上師器・須恵器・近世染付など		第13図
SK-9	X=992・Y=-931 付近	不整円形	N-42°-E	92 × 85 × 11	灰黄褐色B混土			第13図
SK-10	X=994・Y=-932 付近	楕円形	N-3°-W	93 × 63 × 10	褐灰色B混土			第13図
SK-11	X=995・Y=-930 付近	隅丸長方形	N-8°-W	77 × 59 × 10	褐灰色B混土			第13図
SK-12	X=978・Y=-942 付近	長方形	N-66°-E	831 × 62 × 35	褐灰色B混土	ビニール・上師器・須恵器など	現代土坑	第4図
SK-13	X=977・Y=-939 付近	長方形	N-65°-E	360 × 78 × 24	褐灰色B混土	ビニール・上師器・須恵器など	現代土坑	第4図
SK-14	X=972・Y=-934 付近	隅丸長方形	N-67°-E	86 × 60 × 44	褐灰色B混土	プラスチック・陶磁器など	現代土坑	第4図
SK-15	X=978・Y=-932 付近	隅丸長方形	N-29°-W	182 × 64 × 51	褐灰色B混土	上師器		第13図
SK-16	X=979・Y=-938 付近	楕円形	N-61°-E	282 × 52 × 28	褐灰色B混土	上師器・須恵器・陶器		第13図
SK-17	X=979・Y=-938 付近	隅丸長方形	N-67°-E	118 × 75 × 55	褐灰色B混土	須恵器		第13図
SK-18	X=974・Y=-935 付近	隅丸長方形	N-68°-E	251 × 88 × 69	褐灰色B混土	ビニール・上師器・須恵器など	現代土坑	第4図
SK-19	X=978・Y=-930 付近	隅丸長方形	N-17°-W	193 × 74 × 22	褐灰色B混土	上師器・須恵器		第13図
SK-20	X=974・Y=-949 付近	隅丸長方形	N-67°-E	110 × 59 × 15	褐灰色B混土			第13図
SK-21	X=973・Y=-951 付近	隅丸長方形	N-64°-E	152 × 55 × 60	褐灰色B混土	上師器・須恵器		第13図
SK-22	X=972・Y=-947 付近	隅丸長方形	N-67°-E	445 × 88 × 11	褐灰色B混土	上師器・須恵器		第13図
SK-23	X=975・Y=-951 付近	楕円形	N-70°-W	114 × 52 × 6	褐灰色B混土			第13図
SK-24	X=975・Y=-945 付近	楕円形	N-2°-E	102 × 71 × 11	褐灰色B混土	上師器		第13図
SK-25	X=977・Y=-929 付近	隅丸長方形	N-25°-W	224 × 66 × 16	褐灰色B混土	上師器・須恵器		第13図
SK-26	X=977・Y=-929 付近	隅丸長方形	N-19°-W	161 × 54 × 15	褐灰色B混土			第13図
SK-27	X=977・Y=-927 付近	楕円形	N-33°-E	91 × 68 × 10	褐灰色B混土	須恵器		第14図
SK-28	X=970・Y=-955 付近	隅丸長方形	N-21°-E	85 × 76 × 18	褐灰色B混土			第14図
SK-29	X=956・Y=-934 付近	不整楕円形	N-51°-E	102 × 76 × 25	褐灰色B混土			第14図
SK-30	X=958・Y=-943 付近	不整楕円形	N-29°-W	121 × 92 × 14	褐灰色B混土	プラスチック・上師器・古銭など	現代土坑	第4図
SK-31	X=960・Y=-935 付近	楕円形	N-24°-W	126 × [98] × 27	褐灰色B混土	上師器		第14図
SK-32	X=960・Y=-935 付近	隅丸長方形	N-54°-E	96 × 79 × 46	褐灰色B混土	上師器		第14図
SK-33	X=988・Y=-933 付近	隅丸長方形	N-82°-E	220 × 134 × 36	暗褐色土	上師器・須恵器・灰釉陶器	平安時代	第14図
SK-34	X=972・Y=-936 付近	不整円形	N-64°-E	118 × [99] × 49	褐色土		縄文時代カ	第14図
SK-35	X=969・Y=-933 付近	楕円形	N-70°-E	440 × 67 × 36	褐灰色B混土		撹乱痕跡	第5図


SD-1
SD-2
SK-13
SK-18
SK-34
SI-1
SI-6
SI-7
D
D'
82
75
81
83
※集石合成
0 1:200 5m
A L=194.50m
A'
地山
SD-2
地山
B L=194.50m
B'
地山
SD-2
地山
0 1:60 2m

第15図 SZ-1(1)

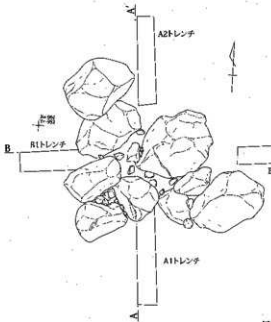




SZ-1

1. 10YR2/2 黒褐色土 C多量、小礫(φ2cm以下)をわずかに含む、締やや強、粘やや弱。
2. 10YR3/2 黒褐色土 C多量、ピブロック(φ5mm以下)を微量含む、粘強、粘やや弱。
3. 10YR3/2 黒褐色土 C中多量、上層ピブロック(φ5mm内)を少量含む、締やや強、粘やや弱。
4. 10YR3/2 黒褐色土(黄色味) C微量、ピブロック(φ1～2cm)多量、場所によっては粘やや多量含む、締やや強、粘やや強。
5. 10YR3/2 ピブロック(φ1cm～不整形)をやや多量含む、場所によっては多量程にある、締やや弱、粘やや強。
6. 山間部N
7. 10YR3/3 暗褐色土 C-1粒少量含む、締やや強、粘やや強。
8. 10YR3/2 黒褐色土 C少量、鉄土粒微量含む、締やや強、粘やや弱。
9. 10YR3/4 明褐色土 C微量、ピブロック(φ1cm)わずかに含む、締やや強、粘やや弱。
10. 10YR3/2 黒褐色土 C微量、上層少量含む、締弱、粘やや弱。
11. 10YR3/2 黒褐色土 ピブロックとの混合土、締やや強、粘やや弱。
12. 10YR3/2 黒褐色土(灰色味) C多量含む、部分的に角閃石安山岩(最大φ10cm)程含む、締やや強、粘やや弱。
13. 10YR3/3 黒褐色土(明るめ) C多量含む、部分的にピブロック(φ1cm)小礫(φ5mm)含む、締強弱、粘やや強、鉄分沈着部が認められることから、形成期間は明らかでないものの、水の影響による鉄質化土と判断した。
14. 10YR4/4 褐色土(黄色味) 『赤褐色にる、締やや強、粘やや弱。
15. 10YR3/3 暗褐色土(黄色味) しやや多量混じる、凹部的にピブロックあり、締やや強、粘やや弱。
16. 10YR3/3 暗褐色土(灰色味) しやや多量混じる、締やや弱、粘やや弱。

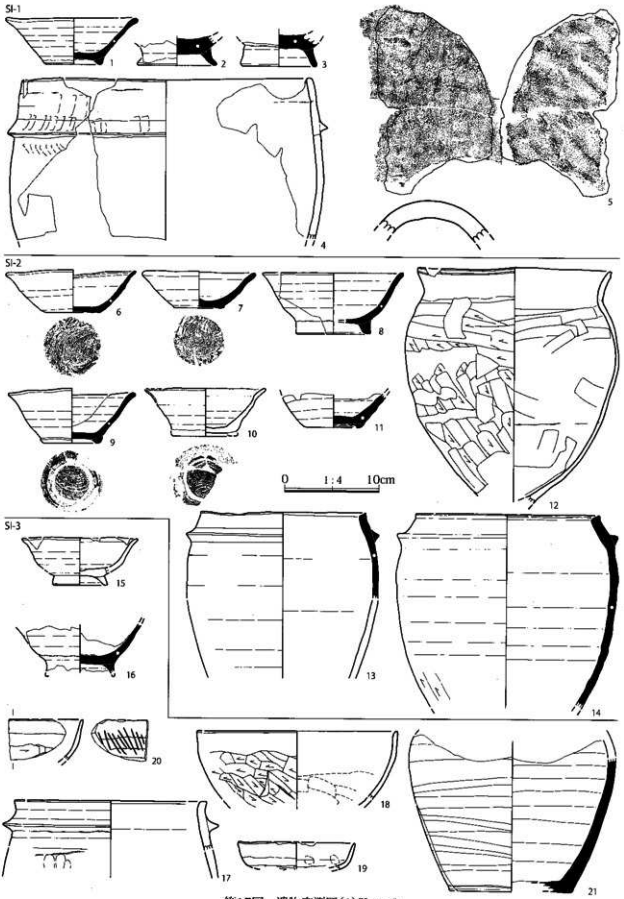
表土上の集石



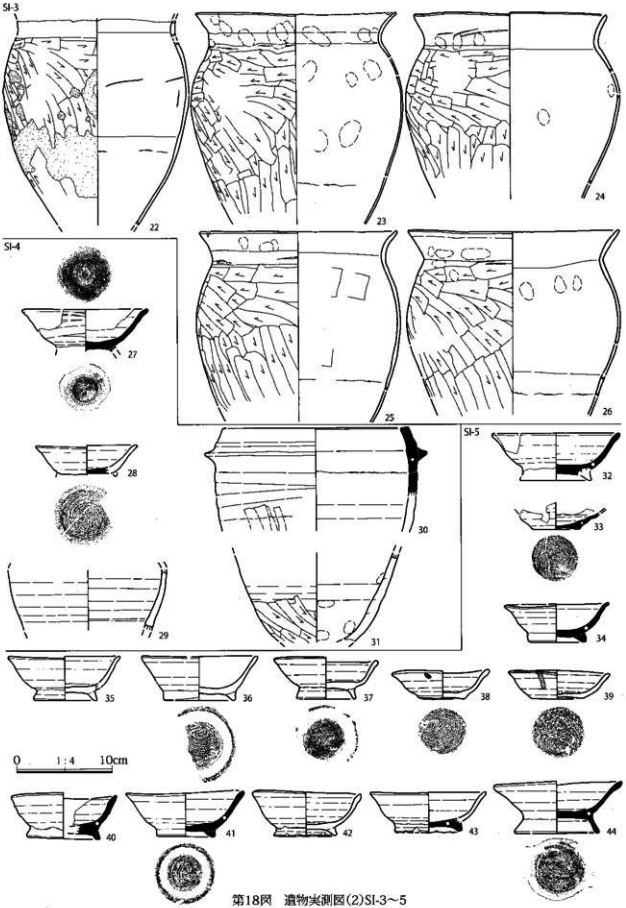
集石
1. カクラン 現代ゴミを含む。
2. 10YR4/1 暗灰褐色土 炭十、As細粒、締弱、粘弱。
3. 2層よりも明るい。
4. 2層に似るが、As多の記入は困難ではない。やや粘性のあるおがやもある。
5a. 10YR3/4 明褐色土 ピブロック(最大φ3cm)を含む、締強、粘やや強、FA層所属。
5b. 10YR3/3 暗褐色土 FA粒を含む、灰褐色気味の粘土上、FA層所属。
6. 地山(As C軽石を含む黒色土)

0 1:60 2m

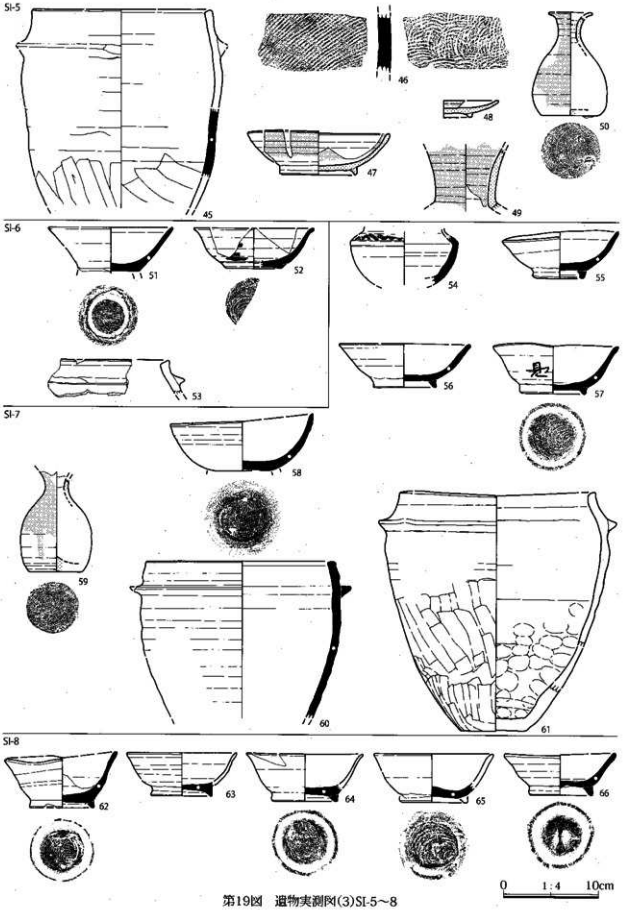
第16図 SZ-1(2)



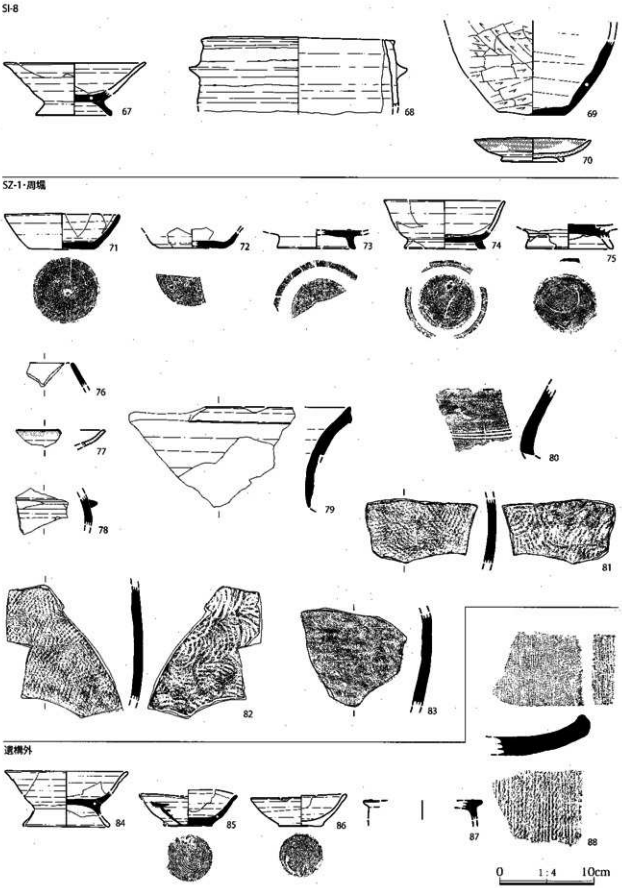
第17図　遺物実測図(1)SI-1～3



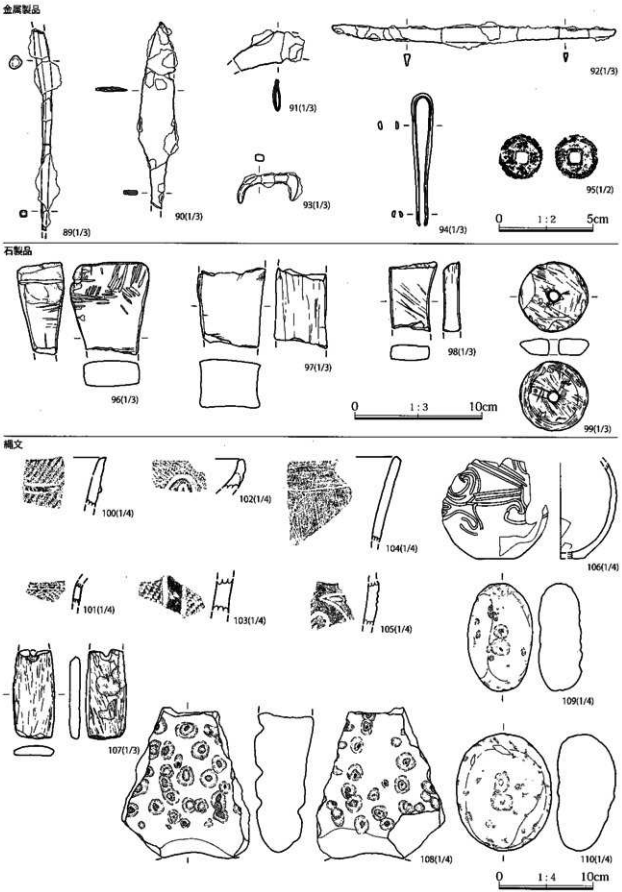
第18図　遺物実測図(2)SI-3～5



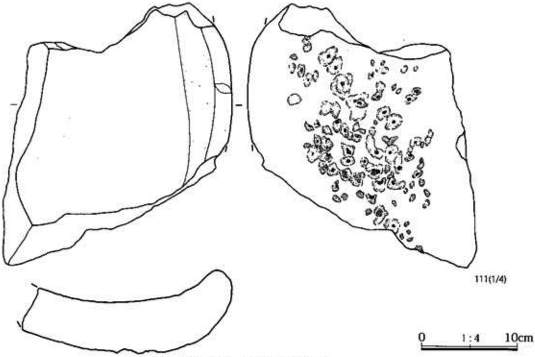
第19図　遺物実測図(3)SI-5～8



第20図　遺物実測図(4)SI-8・SZ-1・遺構外



第21図　遺物実測図(5)金属製品・石製品・縄文遺物(1)



第22図　遺物実測図(6)縄文遺物(2)

第2表　遺物観察表（1）

（凡例）
※ 器種欄の「須恵」は須恵器、「土師」は土師器、「土質」は所謂土師質土器、「灰釉」は灰釉陶器、「縄文」は縄文土器、「鉄」は鉄製品、「銅」は銅製品を表す。
※ 計測値欄の数値は、口径/底径（高台径）/器高の順に示し、（ ）は残存値、［ ］は復元値である。単位はcm。また、これ以外の数値は各項内に明記した。
※ 胎土の観察は、観察者の主観により「緻密」から「粗雑」まで相対的に4段階に分けて記載した。混入物などの観察は行っていない。
※ 焼成欄の「還元」は還元焔焼成、「酸化」は酸化焔焼成を表す。「酸気」は酸化焔焼成気味を表し、その程度を相対的に「強・弱」で示した。
※ 色調の観察は、遺物の主体的部分を占める部分を記載した。　※ 残存欄の「口」は口縁部、「底」は底部、「胴」は胴部、「頸」は頸部を示す。残存割合などは概略である。

土器類

番号	遺構	出土位置	器種	計測値	残存	胎土	焼成	色調	成・整形技法の特徴など
1	SI-1	カマド	須恵・椀	13.6 / 5.9 / 4.9	2/3	やや粗雑	酸気強	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
2	SI-1	覆土	須恵・椀	- / (8.4) / (3.1)	底	やや粗雑	酸気強	にぶい橙色	底部切り離し後高台貼付
3	SI-1	覆土	須恵・椀	- / 7.6 / (3.4)	底	やや粗雑	酸気強	にぶい黄橙色	底部切り離し後高台貼付後ロクロ回転ナデ
4	SI-1	カマド	甕	30.3 / - / (17.6)	口 2/3	粗雑	酸化	明赤褐色	内・外面ロクロ整形　外面ヘラ削
5	SI-1	覆上カマド	不明	長(19.8) / 幅(11.5) / 厚1.8		やや粗雑	酸化	橙色	破片　内面指ナデ　外面ヘラ削り　小口側端部一部残る　丸瓦に似る形態
6	SI-2	床	須恵・坏	13.7 / 6.2 / 4.5	完形	やや緻密	酸気弱	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　口唇部折り返し？
7	SI-2	床	須恵・坏	12.0 / 5.2 / 3.9	完形	やや緻密	還元	黄灰色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　内面重ね焼き痕
8	SI-2	カマド	須恵・椀	(14.8) / (8.0) / 6.5	1/2弱	やや粗雑	酸気弱	暗灰黄色	内・外面ロクロ整形　底部糸切り後高台貼付
9	SI-2	カマド	須恵・椀	(13.2) / 5.4 / 5.8	3/4	やや緻密	酸気弱	灰オリーブ色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
10	SI-2	床	土質・椀	(12.8) / (7.0) / (4.7)	1/3	やや緻密	酸化	暗褐色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
11	SI-2	カマド	須恵・椀	- / 5.6 / (3.6)	口全欠	やや粗雑	酸気強	にぶい黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
12	SI-2	カマド	土師・甕	20.2 / / (25.1)	底欠	粗雑	酸化	暗褐色	内面ヘラナデ　外面ヘラ削り　胴部輪積痕顕著
13	SI-2	覆土	羽釜	(17.4) / / (17.5)	口 1/2	やや緻密	酸気強	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形
14	SI-2	カマド	羽釜	(19.2) / / (20.1)	口～胴 1/2	やや粗雑	酸気弱	灰黄色	内・外面ロクロ整形　外面胴部下位ヘラ削り
15	SI-3	貯蔵土坑	土質・椀	(12.2) / 5.8 / 5.1	2/3	やや緻密	酸化	橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
16	SI-3	貯蔵土坑	須恵・椀	/ / (5.8)	口欠	やや粗雑	酸気強	にぶい橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
17	SI-3	貯蔵土坑	甕	20.2 / - / (8.1)	口	やや粗雑	酸化	明赤褐色	内・外面ロクロ整形　外面指頭痕あり
18	SI-3	覆土	土師・鉢	(20.9) / - / (7.2)	口 1/4	やや緻密	酸化	明赤褐色	内面ナデ　外面ヘラ削り　口縁部横ナデ
19	SI-3	覆土	土師・坏	(12.3) / (10.2) / (2.8)	口 1/4	緻密	酸化	にぶい赤褐色	口縁部横ナデ　底部ヘラ削り
20	SI-3	覆土	土師・坏	(14.0) / - / (4.3)	口破片	やや緻密	酸化	橙色	口縁部横ナデ　外面ヘラ削り　内面放射状暗文
21	SI-3	床	須恵・瓶	- / (13.0) / -	胴下 1/3	緻密	還元	灰色	内・外面ロクロ整形
22	SI-3	カマド前	土師・甕	- / - / (21.6)	胴 1/2	やや緻密	酸化	橙色	内面ナデ　外面ヘラ削り　外面粘質土付着多量
23	SI-3	カマド前	土師・甕	20.9 / - / (23.5)	底欠	緻密	酸化	橙色	内面ナデ　外面ヘラ削り　口縁部横ナデ　指頭痕あり　胴部輪積部色調変化
24	SI-3	カマド前	土師・甕	20.1 / - / (19.8)	底欠	緻密	酸化	橙色	内面ナデ　外面ヘラ削り　口縁部横ナデ　指頭痕あり
25	SI-3	カマド前	土師・甕	20.5 / - / (20.2)	底欠	緻密	酸化	明赤褐色	内面ナデ　外面ヘラ削り　口縁部横ナデ　外面粘質土付着少量
26	SI-3	カマド前	土師・甕	(22.2) / - / (19.7)	1/3	やや緻密	酸化	明赤褐色	内面ナデ　外面ヘラ削り　口縁部横ナデ　指頭痕あり
27	SI-4	P1	須恵・椀	(13.2) / (6.2) / (4.5)	口～底 2/3	緻密	還元	灰白色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付　見込みに[illegible]あり
28	SI-4	貯蔵穴	須恵・椀	(10.6) / (5.6) / (3.0)	2/3	粗雑	還元	暗灰色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付（剥落）
29	SI-4	カマド	灰釉・瓶	- / - / (6.5)	胴破片	緻密	還元	灰オリーブ色	内・外面ロクロ整形　外面施釉　長頸壺か？
30	SI-4	貯蔵穴	羽釜	(19.6) / / (10.9)	口破片	やや粗雑	酸気強	にぶい橙色	内・外面ロクロ整形　外面胴部下位ヘラ削り
31	SI-4	カマド	羽釜?	- / / (9.5)	胴下破片	やや粗雑	酸化	明赤褐色	内・外面ロクロ整形　外面底部付近ヘラ削り
32	SI-5	P2	須恵・椀	13.2 / / (4.4)	2/3	やや粗雑	酸気弱	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
33	SI-5	覆土	須恵・坏	/ 5.0 / (2.8)	底	やや緻密	酸気強	浅黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り
34	SI-5	覆土	須恵・椀	10.7 / 6.1 / 4.2	ほぼ完形	やや粗雑	酸気強	浅黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
35	SI-5	覆土	土質・椀	(11.6) / 6.7 / 4.7	1/2弱	やや粗雑	酸化	にぶい赤褐色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
36	SI-5	覆土	土質・椀	(12.0) / (7.6) / 4.7	1/2	粗雑	酸化	にぶい橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
37	SI-5	覆土	土質・椀	10.7 / 6.3 / 4.5	口小欠	やや粗雑	酸化	橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
38	SI-5	覆土	土質・坏	10.0 / 5.2 / 3.1	完形	やや緻密	酸化	橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　灯明皿か？
39	SI-5	床	土質・坏	10.3 / 5.6 / 3.0	完形	やや緻密	酸化	橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後ナデ？　灯明皿か？
40	SI-5	カマドA	須恵・椀	10.9 / 7.8 / 4.9	底小欠	緻密	酸気強	浅黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付

第3表　遺物観察表（2）

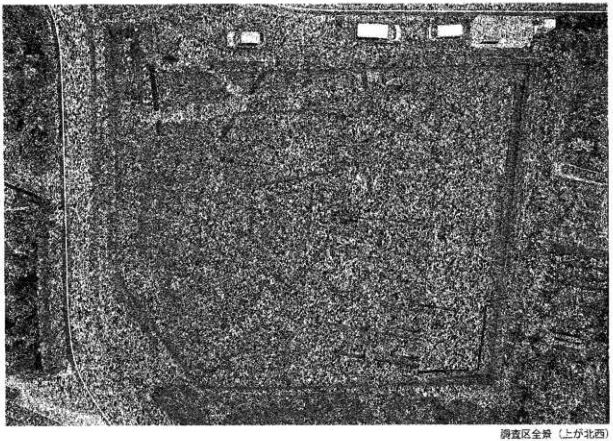
番号	遺構	出土位置	器種	計測値	残存	胎土	焼成	色調	成・整形技法の特徴など
41	SI-5	カマドA	土師・埦	12.2 / 6.2 / 5.0	口小欠	やや粗雑	還元	灰黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
42	SI-5	カマドB	土師・埦	11.3 / 6.7 / 4.9	完形	やや緻密	酸化	橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
43	SI-5	カマドB	土師・埦	(12.0) / 7.1 / 4.3	口1/3	やや粗雑	酸気強	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付　支脚上（№44の上）
44	SI-5	カマドB	須恵・埦	13.2 / 8.9 / 5.5	高台小欠	やや緻密	酸気強	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付　口縁部付着物あり　支脚上（№43の下）
45	SI-5	カマドA	羽釜	(18.4) / - /(20.9)	口〜胴	やや粗雑	酸気弱	灰黄褐色	内・外面ロクロ整形　内面ナデ痕　外面胴部下位へラ削り
46	SI-5	床	須恵・甕	- / - /(6.3)	胴破片	やや緻密	還元	暗青灰色	内面青海波文　外面叩き
47	SI-5	覆土	灰釉・椀	(14.8) / 8.2 / 4.7	2/3	緻密	還元	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部高台貼付　灰釉漬掛け　内面焼成時重ね痕
48	SI-5	覆土	灰釉・皿	(11.4) / (6.0) / 1.8	破片	緻密	還元	灰白色	内・外面ロクロ整形　底部高台貼付　灰釉漬掛け
49	SI-5	覆土	灰釉・長頸瓶	- / - /(6.5)	破片	緻密	還元	灰白色	内・外面ロクロ整形　施釉
50	SI-5	覆土	灰釉・小瓶	(4.2) / 6.2 / 11.0	ほぼ完形	緻密	還元	灰白色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　外面施釉一部剥離
51	SI-6	カマド	須恵・埦	12.2 /(6.5)/(4.9)	口1/2欠	やや粗雑	酸気弱	灰黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付（剥落）
52	SI-6	覆土	須恵・坏	(12.4) / (6.0) / 4.3	1/3	やや緻密	還元	浅黄色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　墨書
53	SI-6	覆土	羽釜	- / - /(3.4)	口縁片	やや粗雑	酸化	にぶい褐色	内・外面ロクロ整形
54	SI-7	覆土	須恵・短頸壺	- / - /(6.1)	破片	やや粗雑	還元	褐灰色	内・外面ロクロ整形　外面肩部上位波状文
55	SI-7	覆土	須恵・埦	12.4 / 4.7 / 5.2	ほぼ完形	粗雑	酸気弱	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
56	SI-7	覆土	須恵・埦	13.6 / 5.6 / 4.7	1/2弱	やや粗雑	酸気弱	にぶい橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
57	SI-7	貯蔵穴	須恵・埦	13.2 / 7.1 / 5.4	完形	やや粗雑	酸気弱	黒褐〜褐灰色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付　墨書　黒色土器か？
58	SI-7	貯蔵穴	須恵・埦	15.0 /(7.5)/(6.0)	2/3	やや粗雑	酸気強	にぶい黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付（剥落）
59	SI-7	覆土	灰釉・小瓶	- / 5.5 / 10.9	ほぼ完形	緻密	還元	灰色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　外面・口縁内面施釉
60	SI-7	カマド	羽釜	(19.8) / - /(16.6)	口1/2	粗雑	酸気弱	褐灰色	内・外面ロクロ整形
61	SI-7	カマド	羽釜	20.7 / 7.0 / 25.4	1/2	やや粗雑	酸化	橙色	内・外面ロクロ整形　内面指頭痕顕著　外面胴部中〜下位へラ削り
62	SI-8	[illegible]土坑	須恵・埦	11.9 / 6.5 / 5.9	4/5	やや緻密	酸気強	にぶい黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
63	SI-8	覆土	須恵・埦	(11.6) / 6.2 / 4.6	1/3弱	やや緻密	酸気弱	にぶい黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
64	SI-8	覆土	須恵・埦	(12.4) / 6.6 / 5.1	1/3	やや粗雑	酸気強	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
65	SI-8	カマド	須恵・埦	(12.4) / (6.1) / 5.2	1/2	やや粗雑	酸気強	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
66	SI-8	覆土	須恵・埦	11.6 / 6.4 / 4.5	口小欠	やや粗雑	酸気強	にぶい黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付後指つまみ痕
67	SI-8	カマド	須恵・埦	(14.6) / 7.8 / 5.6	1/3	粗雑	酸気強	明黄褐色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
68	SI-8	覆土	羽釜	(20.2) / - /(8.0)	口1/2	やや緻密	酸化	橙色	内・外面ロクロ整形
69	SI-8	カマド	羽釜？	- / 7.1 /(7.9)	底	やや粗雑	酸気強	にぶい褐色	内面ロクロ整形　外面へラ削り
70	SI-8	カマド	灰釉・皿	(12.0) / (6.0) / 2.6	1/4	緻密	還元	灰白色	内・外面ロクロ整形　高台貼付　施釉漬掛け　内面重ね焼き痕
71	周溝	覆土	須恵・坏	12.0 / 6.9 / 3.8	4/5	緻密	還元	灰色	内・外面ロクロ整形　底部回転へラ削り
72	周溝	覆土	須恵・坏	- / (7.2) / (2.2)	底1/4	やや緻密	還元	灰色	内・外面ロクロ整形　底部回転へラ削り
73	周溝	SP-C3層	須恵・埦	- / (8.0) / (1.9)	底1/2	やや緻密	還元	灰色	ロクロ整形　底部回転糸切り？後高台貼付
74	周溝	覆土	須恵・埦	(12.6) / 8.5 / 5.1	2/3	やや緻密	還元	灰色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付
75	周溝	覆土	須恵・埦	/ (9.7) /(2.5)	底破片	やや粗雑	還元	黄灰色	ロクロ整形　底部回転糸切り後高台貼付　底部外面墨書か？
76	周堀	覆土	須恵・不明	- / - / (2.5)	口縁片	緻密	還元	灰色	内・外面ロクロ整形　焼成堅緻　口縁部内折として実測図提示
77	周堀	覆土	灰釉・椀	- / - / (2.8)	口縁片	緻密	還元	浅黄色	内・外面ロクロ整形　施釉　輪花椀か？　口縁部に黒色付着物　灯明皿か？
78	周堀	覆土	須恵・不明	- / - / (5.0)	破片	やや粗雑	還元	灰色	内・外面ロクロ整形　焼成堅緻　鍔状の張り出しあり　羽釜に似るが違和感あり
79	周堀	SP0.4層	須恵・甕	- / - / (10.6)	口縁片	緻密	還元	灰白色	内・外面ロクロ整形
80	周堀	覆土	須恵・甕	- / - /(7.3)	頸部片	やや粗雑	還元	黄灰色	外面に波状文
81	周堀	覆土	須恵・甕	- / - / (6.8)	胴部片	緻密	還元	灰黄色	内面青海波文　外面叩き
82	周堀	覆土	須恵・甕	- / - / (14.0)	胴部片	緻密	還元	暗灰黄色	内面青海波文　外面叩き
83	周堀	覆土	須恵・甕？	- / - / (9.7)	胴部片	やや緻密	還元	暗青灰色	内・外面ロクロ整形
84	遺構外	トレンチ	須恵・埦	(12.8) / (9.2) /5.9	2/3	やや緻密	酸気強	にぶい黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部切り離し後高台貼付
85	遺構外	トレンチ	須恵・杯	(10.2) / 5.2 / 3.8	口小欠	やや粗雑	酸気強	黄橙色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　墨書　SI-8に帰属か？
86	遺構外	トレンチ	土師・杯	9.9 / 4.3 / 3.4	ほぼ完形	やや粗雑	酸化	明褐色	内・外面ロクロ整形　底部回転糸切り　口縁部黒色付着物あり　灯明皿　SI-8帰属か？
87	遺構外	SI-5周辺	須恵・蓋	(12.6) / - /(2.0)	破片	緻密	還元	黄灰色	ロクロ整形　短頸壺蓋
88	遺構外	表土	平瓦	長(8.1)/ 幅(10.2)/ 厚1.9	破片	やや粗雑	還元	黄灰色	外面縄叩き　内面布目　側面糸切状（叩き？）　側端部残る

金属製品・石製品

番号	遺構	出土位置	器種	計測値	残存	胎土	焼成	色調	成・整形技法の特徴など
89	SI-1	覆土	鉄・棒状	長(16.0) / 幅0.3〜1.1 / 厚0.3〜1.1 / 重34.8g				明赤褐色	棒状でやや湾曲する　両端部欠損　紡錘車の軸部の可能性あるも太さ不均
90	SI-2	覆土	鉄・鏃？	長(14.3) / 幅3.1 / 厚0.4 / 重31.1g				暗赤褐色	茎の先端を欠損　大型の鉄鏃か？
91	SI-2	覆土	鉄・鏃？	長(5.5) / 幅2.1 / 厚0.4 / 重11.2g				暗赤褐色	鉄鏃の可能性あるも断面形状に疑問あり
92	SI-5	覆土	鉄・刀子	長22.4 / 幅1.3 / 厚0.4 / 重25.9g				暗赤褐色	完形　刃部細く、研ぎ減りで摩耗か？
93	SI-8	覆土	鉄・鉤状	長5.0 / 幅0.6 / 厚0.5 / 重8.5g				暗赤褐色	ほぼ完形　コ字形に曲がる先端が一部欠損する　カスガイか？
94	SI-5	P1	銅・毛抜き状	長10.5 / 幅0.9〜1.6 / 重13.6g				（明）緑灰色	完形　ピンセット状の形態、「毛抜き」か？
95	SK-30	覆土	銅・古銭	径2.3〜2.4 / 孔0.6 / 厚0.1 / 重1.8g				明緑灰色	銭名不鮮明　祥符元寶か？
96	SI-5	覆土	砥石	長(7.3) / 幅6.2 / 厚1.8〜3.6 / 重（220.1g）				浅黄色	破片　小口以外の3面を砥面として使用　刃研ぎ状擦痕あり
97	SI-5	覆土	砥石	長(6.2) / 幅5.1 / 厚3.7 / 重(189.4g)				浅黄色	破片　4面を砥面として使用、うち1面は顕著でない
98	遺構外	トレンチ	砥石	長5.4 / 幅3.7 / 厚1.2〜1.5 / 重(39.4g)				灰黄褐色	破片　4面を砥面として使用　SI-8に帰属か？
99	SI-5	床	紡錘車	外径5.5 / 孔径0.9 / 厚1.3 / 重58.7g				灰黄色	完形　井桁状の線刻あり、その脇に円錐状小孔あり

縄文時代の遺物

番号	遺構	出土位置	器種	計測値	残存	胎土	焼成	色調	成・整形技法の特徴など
100	SI-4	覆土	縄文・深鉢	/ / (5.6)	口縁片	粗雑	酸化	にぶい黄橙色	前期　胎土に繊維を含む
101	遺構外	表土	縄文・深鉢	/ / (2.6)	破片	粗雑	酸化	にぶい褐色	前期　胎土に繊維を含む
102	SD-1	覆土	縄文・深鉢	/ / (4.0)	口縁片	粗雑	酸化	にぶい赤褐色	中期
103	周堀	覆土	縄文・深鉢	- / - / (4.3)	破片	粗雑	酸化	赤褐色	中期
104	遺構外	トレンチ	縄文・深鉢	- / - / (5.5)	口縁片	粗雑	酸化	明褐色	後期
105	周堀	覆土	縄文・深鉢	- / - / (9.0)	破片	やや粗雑	酸化	にぶい黄橙色	後期
106	SI-5	覆土	縄文・注口	- / (4.8) / (10.6)	胴〜底	やや緻密	酸化	明褐色	後期
107	遺構外	トレンチ	[illegible]状石製品	長(7.1) / 幅3.2 / 厚0.8 / 重(37.9g)				緑灰色	上端部欠損　石材未確認（片岩系）　時期不明　断面カマボコ状　長手側端部に鋭い刃取り状加工、小口側端部の加工は丁寧ではない　表裏面は研磨仕上げだがやや粗め　上端部穿孔は表裏両側から円錐状に穿孔し中央で連結
108	遺構外	確認面	多孔石	長(16.0) / 幅(13.4) / 厚5.8 / 重(1398.2g)				灰褐色	破片　表裏に凹み多数あり　端部に敲痕あり
109	遺構外	確認面	凹石	長11.3 / 幅6.7 / 厚4.3 / 重507.7g				灰黄色	完形　表裏に凹みあり　小口端部に敲打痕あり　部分的に剥離あり
110	遺構外	確認面	凹石	長12.4 / 幅10.0 / 厚6.1 / 重1003.4g				灰黄色	完形　表裏に凹みあり　小口端部に敲打痕あり　部分的に剥離あり
111	SI-5	カマド袖石	石皿	長(27.8) / 幅(22.6) / 厚5.7 / 重（4280g）				灰黄褐色	破片　表面摩耗顕著　裏面細かい凹み多数　カマド袖石に転用のため被熱痕あり

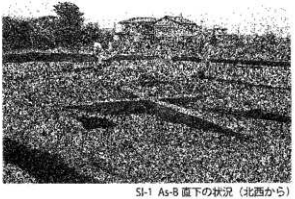


調査区全景（上が北西）

調査区遠景（南東から／中央奥左寄りの杜が北野神社）

調査前現況（北東から／梅林抜根後）

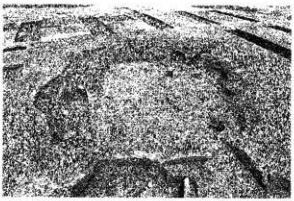
SI-1　As-B 確認状況（南から）



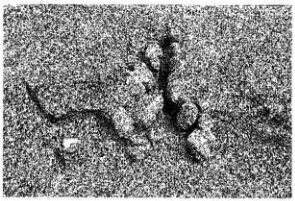
SI-1 As-B 直下の状況（北西から）

写真図版 2

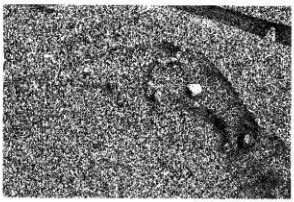
SI-1　土層断面（南東から）



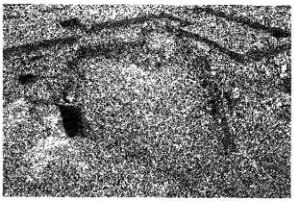
SI-1　全景（西から）



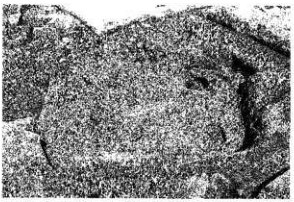
SI-1　カマド（北西から）



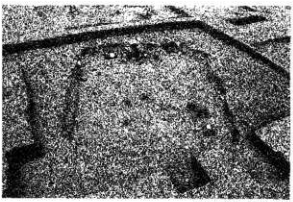
SI-2　全景（西から）



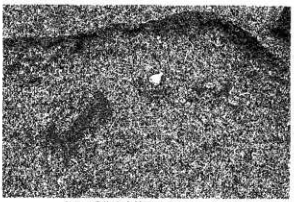
SI-3　全景（西から）



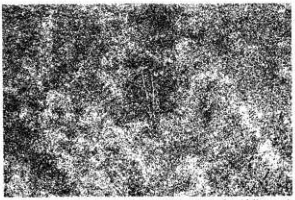
SI-4　全景（西から）



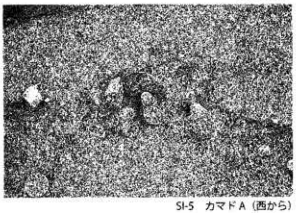
SI-5　全景（西から）



SI-5　遺物出土状況（北東から／遺物№50 周辺）

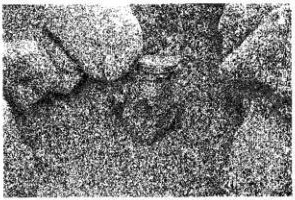


SI-5　遺物出土状況（西から／遺物№ 94）

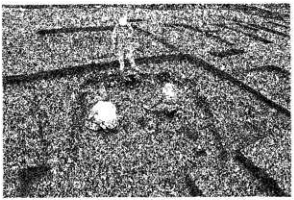


SI-5　カマド A（西から）

SI-5　カマド B（西から）

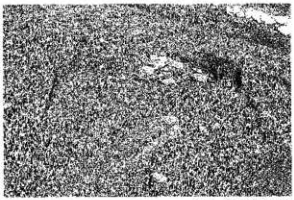


SI-5　カマド B 支脚と遺物№ 43・44 の底部確認状況（東から）

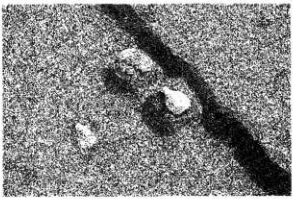


SI-5　調査風景（西から）

SI-6　全景（西から）

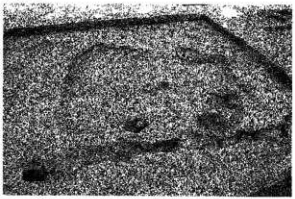


SI-7　全景（西から）

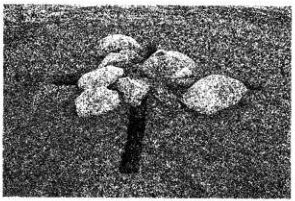


SI-7　遺物出土状況（北東から／遺物№ 59 周辺）

写真図版 4

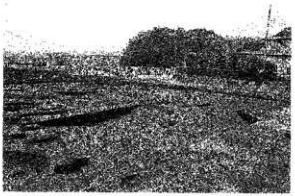


SI-8 全景（西から）

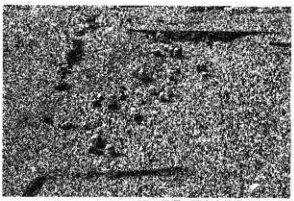


SZ-1　表土上に存在した集石（南から）

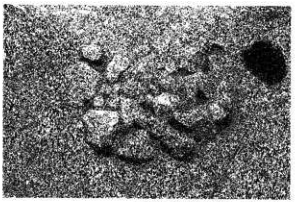
SZ-1　全景（南東から）



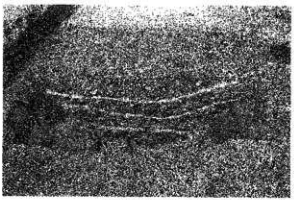
SZ-1　全景（北から）



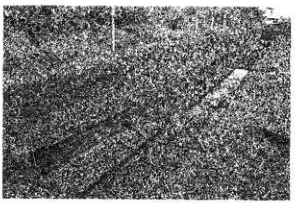
SZ-1 周堤　検出土状況（南から）



SK-34　集石確認状況（北西から）

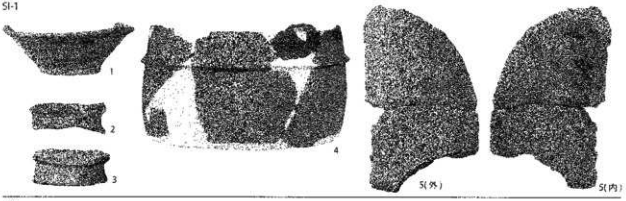


SD-2 東トレンチ　土層断面（南西から）

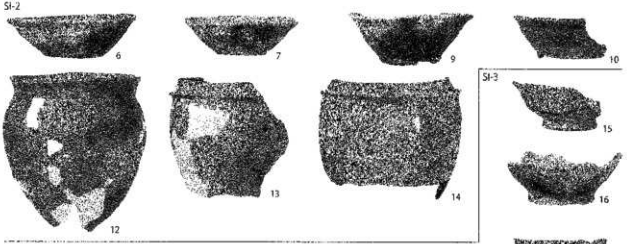


埋没谷の調査状況（北西から）

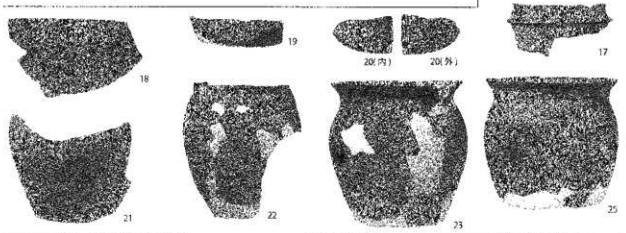
SI-1



SI-2



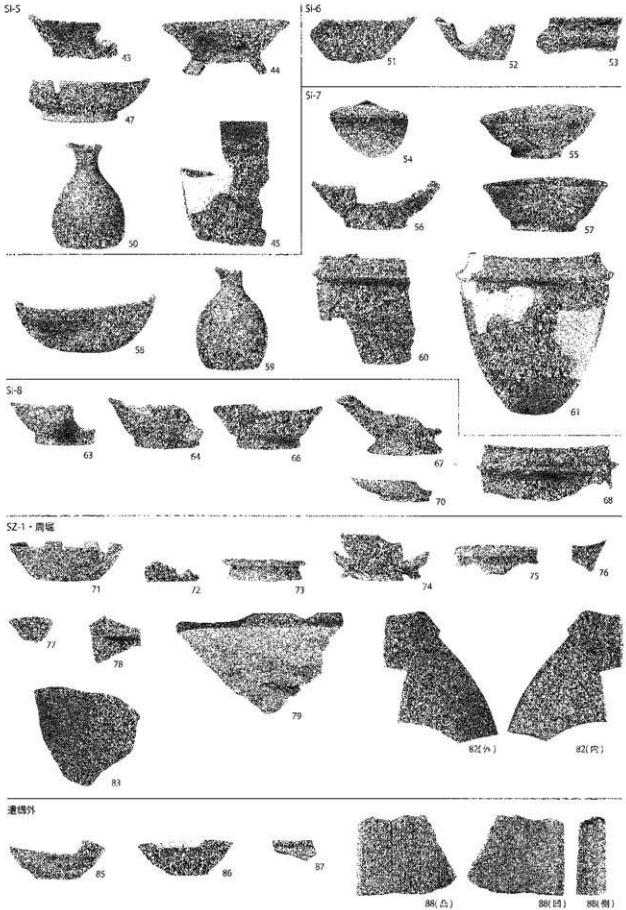
SI-3



SI-4

SI-5

写真図版 6


SI-5
43
44
47
50
45
SI-6
51
52
53
SI-7
54
55
56
57
58
59
60
61
SI-8
63
64
66
67
70
68
SZ-1・周堀
71
72
73
74
75
76
77
78
79
82(外)
82(内)
83
遺構外
85
86
87
88(凸)
88(凹)
88(側)

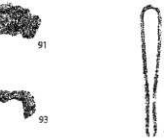
金属製品

89

90

91

93


94

92

95

石製品

96

97

98

99

99

線文

100

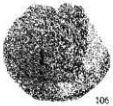
101

102

103

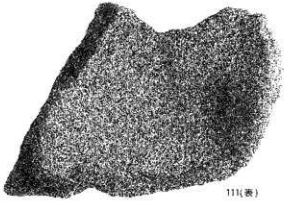
104

105


106

107(表)　107(裏)

108


111(表)

111(裏)

発掘調査報告書抄録

ふりがな	おいばら・てんじんまえいせき
書名	生原・天神前遺跡
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	—
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第256集
編集者名	水谷 貴之
編集機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-8501 群馬県高崎市高松町35-1
発行年月日	2010年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おいばらてんじんまえ 生原・天神前 いせき 遺跡	たかさきし 高崎市 みさとまちおいばらあざ 箕郷町生原字 てんじんまえ ばんち 天神前518番地1 ほか 他	102020	444	36°23′35″	138°57′52″	2009.06.16 ～ 2009.07.19	約1,450㎡	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
生原・天神前	古墳 集落	古墳時代 平安時代 時期不明	古墳 1基 竪穴住居跡 8軒 土坑・溝	縄文土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 金属製品 石製品	SI-1住居跡の覆土中にAs-B純層の堆積を確認した。 1号墳は『上毛古墳綜覧』記載「上郷村第20号墳」と考えられる。

高崎市文化財調査報告書第256集

生原・天神前遺跡

—共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成22年3月23日 印刷

平成22年3月31日 発行

編集・発行 高崎市教育委員会

印刷 上毎印刷工業株式会社